

令和6年度

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里

事業報告書

- 目 次 -

○法人本部拠点区分	P 1
○城ヶ崎いこいの園拠点区分	P 10
○碧の園拠点区分	P 18
○さくらグループ拠点区分	P 59
○奥野苑拠点区分	P 64
○ケアハウス拠点区分	P 76
○やまもも拠点区分	P 80
○こもれび拠点区分	P 85
○奨学金拠点区分	P 97
○城ヶ崎デイサービスセンター拠点区分	P 99
○おおむろ拠点区分	P 105
○事業報告の附属明細書	P 109

令和 6 年度

法人本部拠点区分

事業報告書

1 総括

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里法人理念「共に歩む福祉・心で育む福祉・地域に広がる福祉」に基づき、その提供する福祉サービスの質の向上、事業経営の透明性及び経営基盤の強化に努めました。また、各種会議の開催、職員の人材確保及び定着並びに法人本部の運営強化に努めました。

2 実施状況

(1) 理事会・評議員会等の開催

ア 令和6年度の理事会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和6年5月7日	・ 定款の一部改正 ・ 法人本部設置要綱の一部改正 ・ 職員就業規則等の一部改正 ・ 碧の園トイレ改修工事に係る入札執行について ・ 監事候補者の選任について ・ 評議員会の招集について
2	令和6年6月6日	・ 令和5年度事業報告について ・ 令和5年度収支決算について ・ 監事監査報告について ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況の報告 ・ 令和6年度事業計画の変更について ・ 令和6年度第一次補正予算について ・ 就業規則及び運営規程の一部改正について ・ 障害福祉サービス提供における障害者虐待と疑われる案件に対する改善策等の報告について ・ 経理規程の一部改正について ・ 6月賞与について ・ 施設長等の選任について ・ 定時評議員会の招集について
3	令和6年6月18日	・ 障害福祉サービス提供における障害者虐待と疑われる案件に対する改善策等の報告について ・ 施設長の交代について

	開催年月日	主な議決事項
4	令和6年9月12日	・給与規程の一部改正について ・職員就業規則の一部改正について ・利用者に係る個人番号カード等取扱規程の制定について ・預かり金等管理規程の一部改正について ・経理規程の一部改正について
5	令和6年12月11日	・令和6年度中間会計報告について ・令和6年度中間監事監査報告について ・理事長及び常務理事の職務執行状況の報告について ・中長期計画の報告について ・令和6年度第二次補正予算について ・奥野苑ヘルパーステーションの休止について ・12月賞与について ・評議員候補者について ・評議員選任・解任委員会の招集について ・評議員会の招集について
6	令和7年2月26日	・相談支援センターいぶき（一般相談支援事業）の廃止について ・相談支援センターいぶき（相談支援）運営規程の一部改正について ・職員の賞罰について
7	令和7年3月13日	・令和6年度第三次補正予算について ・令和7年度事業計画について ・令和7年度資金収支予算について ・育児・介護休業等に関する規則の一部改正について ・職員就業規則等の一部改正について ・役員等賠償責任保険の加入について ・評議員会の招集について ・中長期計画の進捗報告について ・児童発達支援センタークローバー運営規程の一部改正について

イ 令和6年度の評議員会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和6年5月15日	・法人本部設置要綱の一部改正について ・定款の一部改正について ・監事の選任について

	開催年月日	主な議決事項
2	令和6年6月21日	・ 令和5年度事業報告について ・ 令和5年度収支決算について ・ 監事監査報告について ・ 障害福祉サービス提供における障害者虐待と疑われる案件に対する改善策等の報告について ・ 令和6年度事業計画の変更について ・ 令和6年度第一次補正予算について
3	令和6年12月19日	・ 評議員の選任報告について ・ 令和6年度中間会計報告について ・ 令和6年度中間監事監査報告について ・ 中長期計画の報告について ・ 令和6年度第二次補正予算について
4	令和7年3月21日	・ 令和6年度第三次補正予算について ・ 令和7年度事業計画について ・ 令和7年度資金収支予算について ・ 職員の賞罰について ・ 中長期計画の進捗報告について

ウ 令和6年度の評議員選任・解任委員会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な議決事項
1	令和6年12月19日	・ 委員長の選出について ・ 評議員の退任について ・ 評議員の選任について

(2) 法人本部会議及び法人運営委員会

※令和6年7月の法人本部設置要綱の一部改正により、法人本部に法人運営委員会を設置しました。

ア 令和6年度の法人本部会議は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な内容
1	令和6年4月26日	・ 理事会及び評議員会提出議案について
2	令和6年5月24日	・ 理事会及び評議員会提出議案について

イ 令和6年度の法人運営委員会は、次のとおり開催しました。

	開催年月日	主な内容
1	令和6年8月21日	・法人運営委員会の運営について ・処遇改善加算の配分について ・中長期計画の作成について ・利用者のマイナンバーカードの管理について ・理事会の議題について ・新型コロナウイルス感染症に係る労災の取扱いについて ・新型コロナウイルス感染症に係る予防接種について ・10月人事異動について
2	令和6年9月19日	・令和7年度新規学校卒業者採用試験について ・奥野苑ヘルパーステーション及びこもれびホームヘルプの運営について ・中間監事監査及び12月理事会について ・福利厚生費の支出基準に関する要綱の一部改正 ・事務局（経理の集約）の体制について ・職員の研修受講に係る年間計画について ・利用者の個人番号カード等取扱規程の運用
3	令和6年10月10日	・奥野苑ヘルパーステーション及びこもれびホームヘルプの運営について ・中長期計画に関連する各種委員会の設置について ・就職祝い金制度について
4	令和6年11月14日	・奥野苑ヘルパーステーション及びこもれびホームヘルプの運営について ・中長期計画について ・12月理事会の議題について ・令和6年度後半の研修計画について ・外国人採用について ・栄養士部会について ・経理事務集約について
5	令和6年11月28日	・令和7年度いこいの園デイサービスセンターの運営について ・城ヶ崎いこいの園大規模修繕について ・奥野苑ヘルパーステーション及びこもれびホームヘルプの運営について ・12月理事会の議題について ・施設整備委員会について ・施設長研修の受講職員について ・新型コロナウイルス感染症の労災対応について

	開催年月日	主な内容
臨時	令和6年12月11日	・ 中長期計画作成の体制について
臨時	令和6年12月19日	・ ヘルパー事業の人員配置について ・ 社会福祉士の実習受入れについて
6	令和7年1月9日	・ ヘルパー事業の人員配置について ・ 経理の集約について ・ 中長期計画について
7	令和7年1月22日	・ いこいの園デイサービスセンターの運営について ・ ヘルパー事業の人員配置について ・ 令和7年度4月人事異動について
8	令和7年2月13日	・ 令和7年度4月人事異動について ・ 賞罰委員会について ・ 令和7年2月理事会について
9	令和7年2月20日	・ 賞罰委員会の報告について ・ 令和7年度4月人事異動について ・ 令和7年3月理事会について
10	令和7年2月26日	・ 令和7年度4月人事異動について ・ 令和7年度新入職員研修について ・ 令和7年度入社式について
11	令和7年3月19日	・ 再発防止対策検討委員会の設置について ・ 中長期計画について ・ 職員の定期昇給等について ・ 職員の配置について

(3) 経営戦略会議

顧問会計士を交え、経営戦略会議を2か月に1回開催しました。各施設・事業所の利用率、予算、コスト管理等の運営及び経営における課題について把握し、課題解決に向け、取組状況の共有に努めました。

	開催年月日	主な内容
1	令和6年6月4日	・ 令和5年度決算報告
2	令和6年7月31日	・ 令和6年4月及び5月の経営成績等

	開催年月日	主な内容
3	令和6年9月30日	・ 令和6年6月及び7月の経営成績等
4	令和6年11月29日	・ 中間会計報告 ・ 令和6年8月及び9月の経営成績等
5	令和7年2月3日	・ 令和6年10月及び11月の経営成績等
6	令和7年3月31日	・ 令和6年12月及び令和7年1月の経営成績等

(4) 施設長会議

毎月1回、法人内各施設・事業所の連絡調整及び情報共有を行いました。

(5) 人材管理

ア 人材確保

(ア) 新規学校卒業者の採用

静岡県社会福祉協議会、静岡労働局等が主催する合同企業説明会への参加、学生に対するオンラインWEB説明会、職場見学及びインターンシップによるキャリア支援など対応に努めました。また、学校訪問で積極的に情報提供を行った結果、令和7年度の新規学校卒業者（高卒）1名を採用することができました。

(イ) 中途採用

インターネット求人広告の掲載、人材紹介サービスの利用、グループホーム世話人採用説明等の合同説明会の参加、伊東市福祉の職場見学会&個別相談会への出展、社会福祉士実習の受入れ後の実習生の採用支援などを行った結果、令和6年度は、年間を通して法人全体で36名を採用しています。令和6年度は、採用者数が退職者数を上回る年度となり、前年と比較して、離職率を改善することができました。（退職者：年間29名、離職率10.1%。令和5年度の離職率14.5%）

(ウ) 外国人採用

ミャンマーからの特定技能により、5名の採用を決定しました。令和7年9月から10月頃の受入れを目指し、関係機関及び法人内受入施設（城ヶ崎いこいの園及び奥野苑のそれぞれの特別養護老人ホームとデイサービス）との連携により各種手続きを進めることができました。

イ 職員の育成及び定着

(ア) 新入職員オリエンテーション及び面談の実施

年間を通じて採用がある中途採用職員に対して、入職した月別に月1回、法人の概要、各種規則・規程について及び新入職員の心構え等について、オリエンテーションを実施しました。

法人本部の体制変更に合わせて、例年のような面談の実施体制を確保することができませんでしたが、各施設からの要請に応じ、職員の定着に向けて、聞き取りの実施に努めました。

(イ) 資格取得支援

社会福祉充実計画に基づき、施設運営に必要な資格取得に向けた支援を実施しました。令和6年度は、法人全体でサービス管理責任者更新研修1名、相談支援従事者初任者研修1名、介護福祉士実務者研修3名、衛生管理者対策講習1名、介護支援専門員各種研修5名に対し、研修受講料を補助しました。

(ウ) 障がい者雇用

関係機関と連携を図り、対象職員の職場定着に向け、法人本部担当職員による3週間に1回の面談実施を継続し、障がい者雇用率の確保に努めました。令和6年度は法定雇用率が2.3%から2.5%に引き上げられましたが、当法人では令和6年度3.3%の雇用率を保っております。また、障害者雇用調整金申請を適正に行いました。

(6) 労務管理

令和6年度は、法人本部の体制強化として、事務局を設置し、法人内各施設で行っていた職員の労務管理等（社会保険等の加入脱退等の手続き、退職共済制度手続き、雇用契約書作成、処遇改善加算の計画及び実績、毎月の給与計算に基づく労務管理事務所との調整、各施設で発生した労災の手続き、マイナンバーの管理、年末調整の取りまとめ等）を法人本部事務局に集約し、法人全体の労務管理等の効率化に努めました。

また、各種就業規則の改正や協定の届出を適正に行いました。育児・介護休業法の改正においては、関係規則を適正に改正し、育児休業等の対象職員に対しては、法人本部担当職員との面談実施により、スムーズな各種制度の利用実施に向け、支援することができました。

(7) 地域における公益的な取組

静岡県社会福祉協議会が主催する、小学生が福祉の仕事に興味や関心を持ち、その魅力ややりがいを知っていただくための出前授業「福祉のお仕事魅力発見セミナー」に参画し、市内の小学校において、職員が講師を務

め、地域の福祉教育の向上に努めました。

開催年月日	実施内容
令和6年6月4日	宇佐美小学校（4年生）54名 講師：相談支援センターいぶき職員

（８）情報開示及び提供

改正社会福祉法に基づく情報開示について、社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムにより、法人の財務情報等を適正に開示し、事業運営の透明性の確保に努めました。また、各施設・事業所と連携を図り、地域に対し法人・施設の活動や取組等を法人ホームページ等により情報発信し、公益性の高い社会福祉法人として、地域社会との信頼関係の向上に努めました。

（９）その他

ア 補助金申請

県及び市による法人運営施設及び事業所に対する物価高騰対策等に対する各種補助金について、法人全体で取りまとめの上、申請しました。

イ 決裁業務の効率化

各施設間を横断する書面決裁の効率化を推進するため、電子決裁の仕組みを施設長及び事務員が対応できるよう導入しました。

ウ 事業所の虐待防止委員会への参画

令和6年6月18日の理事会で報告しました障害福祉サービスの虐待と疑われる案件に対する法人としての取組について、法人本部職員による当該事業所の虐待防止委員会への参画という取組に対し、法人本部担当職員が、毎月1回事業所の虐待防止委員会に出席しました。委員会運営及び取組内容の改善に向け、助言等を行い、虐待防止対策の計画遂行に努めました。

令和 6 年度

城ヶ崎いこいの園拠点区分

事業報告書

第1 特別養護老人ホーム城ヶ崎いこいの園

1 総括

令和6年8月5日から8月24日にかけて入居者、職員を合わせ20名の新型コロナウイルス感染者を確認いたしました。感染対策時には、関係する皆様に大変ご迷惑をおかけすることとなりました。

感染症対策に取り組みながら、安全で安心できる生活環境の提供を行い、個々のニーズに応じられるよう努めてまいります。

コロナ過以降、縮小されていた園内行事の開催内容の見直しを行い、入居者の生活の質の向上に努めました。また、今年度も認知症カフェや対島地域介護事業者連絡会の運営に携わるなど、継続して地域福祉の向上に協力しました。

2 実施状況

(1) 介護サービスの質の向上について

ア 虐待防止委員会を開催し、不適切なケアや環境について確認を行いました。また、委員会主催にて虐待身体拘束の防止、言葉遣い（スピーチロック）に関する勉強会を行い虐待防止に努めました。

イ 口腔衛生委員会を開催し、口腔ケアの状況の把握を行い、歯科衛生士を招いて口腔ケア方法実践に関する勉強会を行い口腔衛生の向上に努めました。

ウ 褥瘡対策委員会を開催し、褥瘡予防に関する計画書の作成、見直しを行いました。また、委員会主催の勉強会にて褥瘡の原因や予防策について学びました。

エ 感染症予防委員会を開催し、感染症物品の在庫及び保管に関する確認や、感染症発生予防についての知識やBCPに基づいた発生時の対応の勉強会を行いました。

オ 外部研修への参加を行うとともに、施設内研修において各委員会主体の勉強会を開催し、職員の質の向上に努めました。

カ 施設内の生活環境の清掃、入居者の整容を心がけ、環境整備や清潔の保持に努めました。

キ コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、家族の面会を館内で行う体制の整備を行いました。また、面会時間について、家族の申し出により予約枠以外での調整を受ける等、連携を図っています。

ク 対島地域ふるさと協議会の運営委員を担い、認知症カフェや対島地域介護事業者連絡会の開催に協力いたしました。また、地域健康フェスタに参加するなど、地域イベントの運営にも協力いたしました。

(2) 食事について

- ア 管理栄養士が作成した献立表に基づき、季節を感じられる食事を提供しました。
- イ 選択メニューを週1回実施し、食の楽しみの提供をしました。
- ウ 摂取量を記録し、個々の嗜好や栄養状態の把握をしました。
- エ 低栄養者にはタンパク質やミネラルの摂取を強化し、褥瘡予防対策を行いました。
- オ 適切な時間と温度での食事の提供を行いました。
- カ HACCPのマニュアルに基づき、設備の整備と清潔の保持に努め、食品や食器の取扱いに配慮を行い、継続的に安全な食の提供を行いました。
- キ 調理従事者の保菌検査を定期的実施し、食中毒発生の予防に努めました。

(3) 保健衛生について

- ア 入居者の健康管理
 - (ア) バイタル測定を行い日々の健康の維持管理に努めました。
 - (イ) 健康診断の調整や予防接種の援助を行いました。
- イ 職員の健康管理
 - (ア) 健康診断（介護担当職員は、腰痛検査含む）や、ストレスチェックを実施し、職員の心身の健康管理に努めました。また状況により産業医の協力の下、体調維持のため経過観察を行いました。
 - (イ) 希望者へ予防接種実施の援助を行いました。
- ウ 看護介護協働ケアの推進
 - (ア) 月に1度安全管理委員会を開催しました。
 - (イ) 家族と連携を図り、終末期の看取り介護を行いました。

3 災害対策

- ア 防災訓練及を実施し、職員の防災教育に努めました。
- イ BCPに基づいたシミュレーション訓練を行い、非常災害対策に努めました。
- ウ 災害に備え非常食の在庫確認を行い補充しました。
 - (ア) 主食：おかゆ、炊き込みごはん、
 - (イ) 副菜：さばの味噌煮、カレー、牛丼、筑前煮
 - (ウ) 飲料：飲料水

4 施設等整備について

ア 建物の老朽化により故障した設備や器機等の修繕工事及び購入を行いました。

(ア) 修繕：エアコン設備（3台）、厨房空調機器ガス漏れ、エレベーター制御基板、浄化槽ブロワー、食堂空調機

(イ) 購入：家庭用エアコン（1台）、業務用レンジ

5 利用実績等

(1) 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	1390	1519	1500	1541	1549	1482	1544	1500	1536	1496	1370	1514	17,941
令和5年度	1485	1530	1500	1533	1505	1447	1487	1494	1507	1495	1273	1362	17,618

(2) 面会者来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	23	36	38	28	7	30	28	32	36	33	17	21	329組
令和5年度	32	30	28	27	27	25	29	30	40	10	23	36	337組

*館内面会(窓越し含む)の数となります(8月は館内でコロナウイルス発生)

*令和6年6月より館内面会となりました。

(3) 月別入退所者数

月	入所の状況					退所の状況		
	家庭	病院	老健	グループホーム	有料老人ホーム	死亡	病院	その他
4月			4				1	
5月			2					
6月								
7月						1		
8月			1					
9月			1			1		
10月			1			1		
11月								
12月						1		
1月			2			3		
2月	1		1					
3月			1			1		
計	1	0	13	0	0	8	1	0
	入居数 14名					退居数 9名		

第2 城ヶ崎いこいの園指定短期入所生活介護事業所

1 総括

要介護・要支援状態にある利用者に対し、自立支援に基づく介護サービスを計画通りに提供しました。特に、利用者の尊厳を重視した対応を徹底するとともに、在宅生活の継続を支援するため、家族やケアマネージャーとの連携を積極的に行いました。

2 実施状況

(1) 基本方針への取組について

- ア 利用者の尊厳を守る姿勢を職員間で共有し、マニュアルの見直しや研修会を通じて、理解の浸透と実践力の向上を図りました。
- イ 在宅生活の継続を支援するため、各利用者の生活状況を十分に把握・考慮した上で、個別支援計画を作成しました。
- ウ 利用者の現存能力を正確に評価し、その能力の維持・向上に向けた支

援を実施しました。

(2) 介護計画について

ア 家族からの連絡事項や要望は、介護ソフトを活用して迅速に職員間で共有し、管理台帳へ的確に反映しました。

イ 記録方法を見直し、用語の統一化を図ることで、見やすく分かりやすい記録の作成に努めました。また、利用中の様子を家族に丁寧な報告しました。

ウ 在宅介護の負担軽減を目指し、家族に対して負担の少ない介助方法の提案や介護技術について助言を行いました。

エ 預かり荷物の管理を強化し、管理台帳を整備することで誤返却の防止に努めました。

オ 利用者の生活に対する意向や要望を定期的に確認し、個別支援計画に反映しました。

カ 家庭での介護負担の軽減を図るため、リハビリ専門職による機能訓練を実施しました。

キ 利用者の趣味や生活習慣を大切にし、施設でも継続できるように個別ケアを実施しました。

(3) 居宅介護支援事業所との連携について

ア 利用中の様子や身体状況の変化について、必要に応じてケアマネージャーへ報告し、最適な支援方法を共同で検討しました。

イ 緊急時の利用依頼に対しては、柔軟な受入体制を事前に整備し、迅速な対応に努めました。

(4) 健康管理について

ア 毎日のバイタル測定を徹底し、異常が見られた際には速やかに家族やケアマネージャーと連携して適切に対応しました。

イ 感染症対策として、徹底した手洗いや消毒の実施、施設内の定期的な換気と衛生環境の強化に取り組みました。

3 利用実績

月	令和5年度			令和6年度		
	利用人数	延利用日数	送迎数	利用者数	延利用日数	送迎数
4月	5	29	14	6	44	20
5月	8	55	18	5	41	25
6月	6	44	19	6	48	32
7月	7	49	18	5	47	28
8月	7	38	14	3	6	5
9月	7	33	13	5	30	22
10月	6	47	14	6	42	25
11月	5	31	13	4	41	23
12月	6	54	13	6	40	25
1月	4	21	8	6	51	26
2月	3	16	10	6	47	26
3月	7	45	27	5	56	32
計	71	462	181	63	493	289

第3 いこいの園デイサービスセンター

1 総括

感染症対策を継続しつつ、利用者が安心安全に利用いただけるよう環境整備を行いました。また、外部ボランティア等を招いてのイベントは実施出来ませんでした。毎月訪問販売等に来ていただき、利用者に楽しんでいただくことができました。

2 実施状況

(1) 介護等について

ケース担当制度を軸とした定期的な会議を開催し、個別処遇を更に強化し、利用者や家族のニーズに沿った質の高い介護の提供に努めました。

(2) 日常業務について

ア 送迎の安全確保のため、原則スタッフ2名体制での送迎を実施し、交通事情や天候等を考慮しながら、利用者の安全確保に努めました。

イ 看護師による体調管理等を行うことにより、体調の変化や疾病の早期発見に努めました。

- ウ 利用者の身体状況に応じた入浴支援を実施し、心身ともにリラックスしていただけるよう配慮しました。
- エ 理学療法士が利用者個々の状態に合わせた機能訓練を行い、心身の機能の維持・向上に努めました。また、家族への報告も行っています。
- オ 利用者の食事形態や嗜好を考慮し、楽しく食事ができるよう努めました。また、アクリル板を設置するなど、感染対策も引き続き行っています。
- カ 趣味活動やレクリエーションについては、スタッフが毎回新しい取り組みを考えました。また、パンや移動スーパー、洋品店等の訪問販売や訪問美容室を依頼することにより、買い物等を楽しんでいただきながら、利用者の利便性も増すことができ、有意義な時間を過ごしていただくことができました。
- キ 館内に感染症が持ち込まれないよう、マスク着用や換気に努めるとともに、送迎車輛へ乗車する前の体温確認、到着時には手指消毒、バイタルチェックを行い、送迎車は使用の都度車内消毒を実施しました。

(3) 年間実施行事

- ア 4～6月
新緑会、昼食ビュッフェ、あじさい祭り
- イ 7～9月
七夕祭り、敬老パーティー、夏祭り
- ウ 10～12月
運動会、昼食ビュッフェ、クリスマス会
- エ 1～3月
新年会、豆まき会、ひな祭り会

3 利用実績

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年	503	525	470	550	535	477	511	492	459	439	430	473	5,864
令和5年	363	376	370	364	354	342	330	350	366	398	421	455	4,489

令和 6 年度

碧の園拠点区分

事業報告書

第1 障害者支援施設碧の園

1 総括

碧の園において、入浴・排泄・及び食事等の介護、創作活動又は生産活動の機会の提供、生活等に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援を行いました。新型コロナウイルスが第5類となったことにより少しずつ以前の体制に戻るように目指しました。利用者の高齢化・重度化が引き続き課題となっており、より細やかに対応するための支援方法の確立が課題となっています。

2 重点目標に対する取り組みと成果

- (1) 利用者の意向・障害の特性、その他の事情を含めた個別支援計画の作成により継続的な評価を行いました。
- (2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った福祉サービスの提供を行ったことにより、どのように日常生活の支援を行えば利用者に喜ばれるか自発的に考え、意見・共有できるようになりました。
- (3) 利用者の人権擁護・虐待の防止・障害者差別の解消の推進のための研修を実施したことにより職員の虐待に関する意識向上と未然防止に努めました。

3 実施状況

(1) 個別支援計画の作成

サービス管理責任者が個別支援計画を作成しました。作成に当たっては、利用者及びその家族の生活に対する意向、総合的な支援の方針、サービスを提供する上での留意事項等を記載しました。また、個別支援計画は、利用者の能力、その置かれている環境、心身の状況等の評価を通じて利用者の希望する生活や課題等の把握を行い、利用者が自立した生活を営むことができるように立案しました。

また、個別支援計画の見直しを6か月に1回行いました。

(2) 介護・支援

介護・支援は利用者の人格に十分配慮し、個別支援計画によるサービスを念頭に行いました。また、利用者の心身の状況や障害レベルに応じて、適切な技術をもって介護・支援を行いました。

排泄の介護は、利用者の心身の状況や排泄状況などをもとに、自立支援の観点からトイレ誘導や排泄介助等について適切な方法により行いました。

(3) 生産活動

生産活動の内容については、利用者の心身の状況、利用者の本人の意向・適正・障害の特性・能力などを考慮した生産活動を提供しました。また、

利用者に生産活動に係る事業の収入から生産活動に係る事業に必要な経費を控除した額に相当する金額を工賃として支払いました。

(4) 機能訓練の実施

中伊豆リハビリテーションの理学療法士に来園していただき、その助言を基にリハビリの強化、食事・排泄などの日常生活動作の改善を行い利用者の身体機能低下を防ぎました。

(5) 外出支援

新型コロナウイルスが第5類となったとはいえ、外出を気兼ねなく行えるようになるまでには市内の感染が落ち着きませんでした。利用者のお楽しみの充実・社会参加の支援として外出の代替えとして、ケーキなどを事前に選択して食べる会を毎月実施しました。

(6) 食事

食事の提供に当たっては、利用者の年齢や障害の特性に応じて適切な栄養量及び内容の食事を確保するため、栄養士による栄養管理を行いました。また、誤嚥予防のために必要に応じ嚥下検査を行いその結果を基に食事形態の工夫を行いました。

(7) 社会生活上の便宜の供与

利用者が自らの趣味・嗜好に応じた活動を通じて充実した生活が送ることができるように支援しました。また、郵便・証明書等の交付申請等、利用者が必要とする手続きにおいて利用者又は家族が行うことが困難な場合は同意を得た上で代行しました。

(8) 職員の資質向上

職員の資質向上のために、園内の研修を企画し、外部の研修には積極的に参加しました。また、研修の内容をフィードバックするために研修報告会を行いました。

(9) 苦情解決

利用者又は家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置し対応しております。

(10) 身体拘束の禁止

利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行いませんでした。身体拘束廃止会議を行いました。緊急やむを得ない場合は後見人又は家族への説明と同意書を頂いた後に実施しました。

(11) 防災対策の充実強化

消防法令に基づく設備が整備され定期的に点検を行いました。また、消火訓練・避難訓練を月1回実施しました。

(12) 虐待防止

碧の園における虐待を未然に防止するために、虐待防止に関する委員会を開催しました。また、職員に対する虐待防止の啓発・普及するための研修の実施を行い不適切な支援の防止を図りました。

(13) 新型コロナウイルス感染症について

予定されていた外出計画・ボランティアの来園・会議・職員研修などは、厚生労働省や静岡県の方針を基にして、対応会議に各事業所管理者を交えて適宜開催した上で感染拡大防止の観点から中止又は開催できるものは感染症対策を取った上で実施いたしました。

施設内での幾度かのクラスターの経験を踏まえ、感染症対策専門家や関係機関の助言を受けながら対応方法を構築し、日課の調整を行うことにより少しずつではありますが、利用者の生活を元に戻しつつあります。また、濃厚接触者や発熱者など近い場所に感染を疑われる関係者がいた場合は、適宜通院検査・日課変更や調整を行い、対応を行いました。

短期入所に関しては利用される前に体調不良の有無を確認した上での利用とし、日中一時支援事業に関しては施設入所者との接触を避ける形での受入れを行いました。

なお、令和6年度は新型コロナの集団感染については、10月に利用者15名、職員2名の計17名。1月に利用者18名、職員3名の計21名、3月に利用者4名職員1名の計5名となっております。

(14) 栄養課

利用者の心身の健康と保持増進に必要な食べ物を提供するだけでなく、食事を通じ利用者の望ましい食習慣、栄養や衛生についての知識を得られるように努めました。

ア 年間報告

(ア) 給食面

調理はあらかじめ作成された献立に従って行い、栄養価・予算・嗜好も考慮することができました。また、適温給食を心がけました。

(イ) 栄養面について

必要に応じて嘱託医の指示により、治療的食事の対応をしました。詳細については、次の表のとおりでした。

令和7年3月31日現在

食事形態	ペースト	全粥	軟飯	荒刻み	刻み	一口大	減塩食	糖尿食	ダイエット食
対象者	1名	3名	1名	3名	6名	14名	1名	1名	13名

- (ウ) 衛生面
- a 給食施設、設備の整備と清潔の保持、食品・食器の取扱い、安全面に十分留意しました。
 - b 給食従事者は自己の健康管理や調理時の身支度に留意しました。
- イ 月間報告
- (ア) 給食従事者の検便は毎月 1 回と、食中毒多発期には（6 月～9 月）2 回の合計 16 回行いました。
 - (イ) 残菜調査は毎食ごと記録しました。
- (15) 保健衛生
- 健康の維持増進・予防を重点に実施しました。
- ア 利用者
- (ア) 嘱託医 高野医院 （毎週 水曜日）
 - (イ) 健康診断 年 2 回（前期 8 月：後期 3 月）
血液検査・胸部 レントゲン・検尿・血圧測定
 - (ウ) てんかん薬服用者は、定期の血液チェック（16 名）
 - (エ) 歯科検診 伊豆高原歯科
治療の必要な利用者については 定期的に治療・経過観察実施
 - (オ) 精神科医受診（順天堂大学病院附属静岡病院 桐野 衛二医師）
随時順天堂病院にて検査・診察 月 1 回の受回診で精神薬服用者の診察及び血液チェック
 - (カ) 体重測定 毎月 1 回（肥満・体重減少傾向については 2 回）
低体重の利用者については 毎週体重測定を実施
 - (キ) 血圧測定 高齢者 降圧剤服用者は毎日測定
 - (ク) 通院件数

	内科	歯科	眼科	精神	婦人科	皮膚	外科	耳鼻科	整形	糖尿	脳神経	合計
6 年度	687	268	43	487	14	61	9	30	40	25	41	1,705
5 年度	678	188	38	392	12	90	35	38	50	37	40	1,598

- イ 職員
- (ア) 健康診断 全職員対象 年 1 回、夜勤者年 2 回施行
 - (イ) 検便は利用者の食事支援を行う職員に実施
- ウ その他
- 利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種を受けました。

4 利用実績

(1) 生活介護

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
6 年度利用者延人数	989	1,026	871	1,018	962	920	
6 年度利用率 (%)	89.9	89.2	87.1	88.5	87.4	87.6	
5 年度利用者延人数	929	1,047	1,019	981	1,062	943	
5 年度利用率 (%)	92.9	91.0	92.6	93.4	92.3	89.8	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
6 年度利用者延人数	1,017	960	866	883	871	893	11,276
6 年度利用率 (%)	88.4	91.4	86.6	88.3	87.1	85.0	88.0
5 年度利用者延人数	1,030	1,035	916	902	949	949	11,762
5 年度利用率 (%)	93.6	94.0	91.6	90.2	90.3	90.3	91.8

(2) 施設入所支援

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
6 年度利用者延人数	1,200	1,238	1,188	1,236	1,237	1,192	
6 年度利用率 (%)	100.0	99.8	99.0	99.6	99.7	99.3	
5 年度利用者延人数	1,193	1,240	1,191	1,240	1,240	1,193	
5 年度利用率 (%)	99.4	100.0	99.3	100.0	100.0	99.4	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
6 年度利用者延人数	1,236	1,200	1,210	1,193	1,104	1,212	14,446
6 年度利用率 (%)	99.6	100.0	96.8	96.2	98.6	97.7	98.9
5 年度利用者延人数	1,240	1,200	1,218	1,239	1,153	1,228	14,575
5 年度利用率 (%)	100.0	100.0	98.2	99.9	99.3	99.0	99.5

第2 碧の園ショートステイ（併設型短期入所）

1 総括

地域・在宅生活をされている家庭の方の休息や、やむを得ない緊急時などの受入れを行い、地域生活の一役を担うための機能は果たすことができたと思われます。

また、家族が急病となり自宅で過ごすことのできない利用者が長期のショートステイ利用になるケースが多くなっております。そのために通常のショートステイ希望の方が利用できないことがあり課題となっています。

2 実施状況

（1）事業内容

ア 利用対象者

短期入所：短期入所利用決定を受けている障害児（者）

イ 利用定員

短期入所：7名（併設型）

ウ 支援内容

（ア）食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。

（イ）日中の班活動、レクリエーション等余暇活動を支援しました。

（ウ）家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

（2）効果

ア 保護者の介護負担を軽減し、リフレッシュする時間を作ることができました。

イ 生活面で問題のある利用者や身寄りの無い利用者の受入れを行い、家族・関係機関との連携を図り支援を行いました。

ウ 家庭内調整を図る時間を作ることにより、利用者と保護者の精神的な安定に貢献しました。

エ 利用に関する相談を行い、利用者に関する状況の把握ができました。

オ 利用希望状況に応じた職員配置を行うことで、重度の障害の方の受入れに応じることができました。

カ 保護者体調不良時や冠婚葬祭等、緊急時の利用受入れに対応しました。

3 利用実績

	令和 6 年度		令和 5 年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4 月	186	88.5	155	73.8
5 月	197	90.7	172	79.2
6 月	171	81.4	175	83.8
7 月	176	81.1	174	80.1
8 月	170	78.3	197	90.7
9 月	171	81.4	180	85.7
10 月	185	85.2	158	72.8
11 月	156	74.2	165	78.5
12 月	166	76.4	164	75.5
1 月	156	71.8	149	68.6
2 月	137	69.8	149	73.3
3 月	139	64.0	163	75.1
合計/平均	2,010	78.6	2,001	78.3

※短期入所(併設型)利用定員 7 名

第3 碧の園ショートステイ（日中一時支援事業）

1 総括

地域・在宅生活をされている家庭の方の休息や緊急時などの受入れを行い、地域生活の一役を担うための機能は果たすことができたと思われます。
また、対応をする場所と人員の確保が課題となっています。

2 実施状況

（1） 事業内容

ア 利用対象者

（ア）日中一時支援：碧の園と日中一時支援委託契約をしている市町（伊東市・熱海市・伊豆市・東伊豆町）に在住し、その市町の日中一時支援利用決定を受けている人

イ 利用定員

（ア）日中一時：なし（安全にお預かりできる範囲内）

ウ 支援内容

（ア）食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。

（イ）日中の班活動、レクリエーション等、余暇活動を支援しました。

（ウ）家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

（2） 効果

ア 保護者の介護負担軽減やリフレッシュする時間を提供できました。

イ 生活面で問題のある利用者や身寄りの無い利用者の受入れを行い、家族・関係機関との連携を図り支援を行いました。

ウ 利用に関する相談を行い、利用者に関する状況の把握ができました。

エ 利用希望状況に応じた職員配置を行うことで、重度の障害の方の受入れに応じることができました。

オ 朝から夕食後の時間帯の利用希望に応えることで、保護者の就労の継続に貢献しました。

カ 保護者体調不良時や冠婚葬祭等、緊急時利用受入れ対応しました。

3 利用実績

	令和 6 年度利用者延人数	令和 6 年度利用者延人数
4 月	42	28
5 月	45	25
6 月	48	21
7 月	33	34
8 月	46	25
9 月	36	27
1 0 月	41	27
1 1 月	23	21
1 2 月	39	34
1 月	18	22
2 月	33	31
3 月	46	34
合計	450	329

第4 児童発達支援センター クローバー

1 総括

令和6年度は「利用児の多様性に対応するため、職員の充足、内容の充実に努め、より多くの方が安心して利用できる体制を作っていきます。また、センターとしての役割を、広報啓発していきます。」を重点目標とし活動を行ってまいりました。

児童発達支援事業では、職員の定着によるスキルの向上、利用児家族との信頼関係の向上を図ることができたこと、数年来の事業継続において地域や各園、保健師等、関係機関との連携の構築により利用児の総数が増え、利用増加につながりました。また、非常勤ではありますが、看護師を雇用したことにより、再び医療ケア児に対する療育を提供できる体制が整い、地域に必要とされる声にこたえられる形となりました。

感染症の課題は残っていますが、保護者の交流会や参観など行事も再開し、家庭と集団での子供の様子の違いや療育による成長した部分などを見ていただく機会が出来ました。先輩ママが後輩ママへアドバイスをする場面なども見られ、保護者間の関係構築も図ることができました。保護者同士が寄り添い励まし合える関係は保護者同士のエンパワーメント支援となっています。

放課後等デイサービスでは、今年度は大幅な報酬改定があり、年4回開催している放デイ連絡会において、市の職員に依頼し勉強会を開催しました。連絡会では、タイムリーな話題を取り上げ、関係機関との情報共有の場とすることができました。

支援においては、子どもが自分で選択できる場面を増やし、学校卒業後を見据えて自立に向けた支援を心掛けました。外出やクッキングを行い、楽しみを提供することも意識しました。しかしながら、昨年度に比べて大幅な利用減となりました。必要な人員が揃わず閉所とした日があり、土曜日の閉所を再開することもできませんでした。今年度も見学や利用についての問い合わせが多くあり、受け入れ態勢を整えていくことが急務だと感じました。

1月には県の実地指導があり、日々の業務についての見直しや認識の相違を確認でき、行うべきことが明確になりました。来年度は、地域交流の活動や保護者同士の繋がりに力を入れていきたいと考えています。

保育所等訪問支援事業においては訪問支援員2人で、週延べ3日の稼働となっています。訪問支援員はいずれも児童発達支援事業と兼務しており児童発達支援の営業日以外に訪問日を設定している為、必要なタイミングでの訪問ができないことも多くなっています。年末の事業所に対するアン

ケートにおいても同様の指摘があり、7年度は訪問支援員がいつでも動ける体制を構築していきたいと考えます。また、この事業に関して、訪問先の認識として、法制度の理解が乏しいことも分かりました。職員の異動も多く、学校内で常に周知いただけることが難しいようです。令和7年度は改めて法制度の仕組み及び、保育所等訪問支援に関する書面を作成し関係機関へ説明、配布していくこととしました。支援の内容については多くの保護者や訪問先からの好評をいただいております、支援員のスキルの向上を念頭に来年度も実施していきたいと考えております。

2 実施状況

(1) 実施事業

- | | | |
|---|--------------|---------|
| ア | 児童発達支援 | 定員 10 名 |
| イ | 放課後等デイサービス | 定員 10 名 |
| ウ | 保育所等訪問支援 | |
| エ | 相談支援 | |
| オ | 他機関支援（専門職派遣） | |

(2) 事業内容

ア 児童発達支援

(ア) 定員：10名

(イ) 対象児

伊東市及び近隣市町に住む児童発達支援のサービス受給決定を受けた就学前の児童

(ウ) 利用日時

月曜日～金曜日…8：30～14：30

(エ) 場所

碧の園クローバー棟

(オ) 支援体制

職員4～5名（保育士・児童指導員・作業療法士等）

(カ) 支援内容の効果

a 個別支援計画の作成

6か月に1度見直しを行っております。計画前後には面談を行い、保護者の育児に対する不安、特性による行動に対する対応方法などをアドバイスし困りごとを解消できるよう相談対応しています。

b 日常生活動作訓練

個々の身体的特性や発達特性、発達年齢をふまえ、食事、着替え、排泄（トイレトレーニング含）時の介入方法をスタッフ皆で共有し介入しています。個々に対応が異なること、マンツーマン対応となるため、

PDCA サイクルを職員全体で行っています。

c 療育

毎月 1 回のカンファレンスと日々の振り返りを行い、個々の療育目標や課題等について検討。目標に合わせ日々の活動内容を決定し遂行しています。

d その他季節行事等

毎月季節に合わせた制作を実施。七夕、正月遊びなど季節に合わせた活動も取り入れている。プールやハロウィン、クリスマス会などは全員参加の大きな行事として実施している。

周囲の変化への気づきや季節の移り変わりによる衣類の調整など五感への働きかけを大切に療育に取り入れています。

e 相談支援

日々、積極的にコミュニケーションを図る中で、保護者の様子や気持ちの変化を敏感に感じ必要な声かけや助言、または傾聴し育児への活力を育てていくような働きかけをしています。

(キ) 効果

a 多職種チーム連携

保育士・社会福祉士・作業療法士が利用児に対しそれぞれの視点から分析することができ、多角的な支援に繋がっています。PDCA サイクルが有効に働いています。

b 療育結果

併用先幼稚園、保育園の先生方や、保護者の皆さんに、通所後の利用児の変化の声をいただいています。

(ク) 反省

a 職員確保、事業の継続性

利用児の低年齢化、特性の表面化、利用児童数の増加により、リスク管理や活動準備に時間がかかります。児童発達支援管理責任者 1 名以外は非常勤スタッフで運営しているため個々の負担は増えています。また、スタッフの急な休みの際に利用児にお休みいただくなど協力を得ながら安全確保に努めなければなりません。

b 利用人数に対する環境の課題

定員数に対する療育環境の狭さ、収納場所が確保できないため十分な療育用具が準備できていません。また、トイレが隣接していないため誘導に時間や人手がかかることなどが挙げられます。

c 給食の提供停止の継続

碧の園の栄養課の人員不足により令和 5 年 9 月より食事の提供が出来

ていません。(利用児にはお弁当を持参していただいています。)

イ 放課後等デイサービス

(ア) 対象者

伊東市及び近隣市町に住む就学中の児童

(イ) 利用時間

月曜日～金曜日…下校時間～17:30

祝日(年末年始は除く)…8:30～17:30(昼食はお弁当持参)

(ウ) 場所 碧の園クローバー棟及びグラウンド

(エ) 支援内容及び効果

a 個別支援計画の作成

基本的に6か月に1回の見直しを行いました。保護者と面談を行ない、日常生活の課題を把握し計画を立案しました。学校とも連携を図り、ケース会議の場を設けました。また、保護者了承のもと、個別の教育支援計画をいただき、支援の統一をしました。

b 外出活動

敷地内のグラウンドで、ボールや乗用玩具を使う遊びをしました。時間のある日は、一碧湖までの往復散歩に出掛けました。夏休み中は、熱中症に気をつけながらプール遊びをしました。1日開所時は、遊具が充実している公園で過ごしました。また、お買い物の機会を増やして、商品を選んで購入する体験をして楽しみを提供しました。

c 室内活動

個々のレベルに合わせたプリントの提供や本の読み聞かせを行いました。子どもたちの大好きなクッキングでは、手洗いやマスクの着用(できる方)をして感染症予防に努め、お手伝いをしてもらいました。また、順番を守ることや「いただきます」の挨拶を大事にしました。集団活動を行うことによって、コミュニケーション力や協調性を育む機会を増やしました。

d 行事活動

夏祭りではおみこしを製作して、敷地内を回り、他施設との交流をしました。ハロウィンでは、好きなキャラクターの衣装を着用し、おやつが獲得できるゲームをして楽しみました。クリスマス会は、特別感を味わってもらうため、お店に行きクリスマスの雰囲気を感じ、ケーキやドーナツ・飲み物を選択して購入しました。帰りの会で誕生日の子どもを紹介し、みんなでお祝いの歌を唄っておやつの詰め合わせをプレゼントしました。運動会は今年度も開催できませんでした。

e 日常生活支援

食事、排泄、着替えの見守り・支援を行いました。子どもたちの自立を促すため、保護者に持ち物や衣服の見直しを提案し、子どもたちにとって扱いやすい物を準備してもらい、自立に向けた支援を心掛けました。

f 相談支援

ご家庭での困りごとを把握し、支援していく中で上手くいった例をお伝えし、改善につなげることができました。また、家庭内で環境の変化があった時は、今後についてケース会議を開き、各家庭に寄り添った対応を検討しました。

g お便りの発行

毎月1回お便りを発行し、日々の活動の様子を写真に撮って掲載し、保護者に子どもたちの様子が伝わるよう努めました。

h 放課後等デイサービス連絡会

年4回の連絡会に出席し、他事業所や学校と情報交換を行い、地域の子どもたちが抱える課題などについて、検討を重ねました。連絡会では、報酬改定の確認や学校見学、高等部卒業後の進路について、事業所や保護者が知りたいこと・聞きたいことに重点を置いた内容を考え実施しました。

i 感染症対策

同一敷地内で発生した感染症については、速やかに保護者に連絡しました。室内や車内の消毒、換気は引き続き継続して行いました。職員は常時マスクの着用をして業務に取り組みました。

j 送迎

下校時間に合わせて学校への迎え、退所時間後の自宅への送りを行いました。送迎時に様子を伝え合い、子どもたちの理解を深めていき支援に結びました。

(オ) 反省

a 保護者の要望である土曜日の開所について、再開することができませんでした。

b 今年度も保護者が参加する場を持つことができませんでした。保護者会や研修会を開き、保護者同士の繋がりを持つ場の提供や災害についての研修を企画していければと思います。

ウ 保育所等訪問支援

(ア) 対象児

伊東市及び近隣市町にある保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等

学校に通う保育所等訪問支援のサービス受給決定を受けた18歳までの児童生徒

(イ) 場所

対象児の通う幼稚園・保育園・学校等

(ウ) 支援方法

個々の通う園・学校等を訪問し日常行動を観察。教職員、保護者が望む教育を対象児に届ける方法を共に検討します。

(エ) 支援内容

a 園・学校を個別訪問

b 保護者や教職員の対象児に対する思いに対し課題を確認し目標設定を行います。

c 行動観察・評価

a で見た様子を分析し、b を実現するための方法をカンファレンスで検討します。

d 定期的に訪問し実施経過と表れに応じた支援方法の再検討を行います。

(オ) 効果

a 効果を感じていただいた学校からの紹介事例も増えています。

b 契約数増加しています。

c 対応により学校生活が安定し終了するケースも増えています。

(カ) 反省

事業についての周知が難しいです。来年度は訪問先全体で周知が図られるよう資料を作成し回覧いただけるよう依頼していきます。

エ 相談支援

(ア) 支援内容

a 電話・訪問等にて相談を受け付けます。その内容に応じ必要なアドバイスを行います。

b センターで対応困難な事例であれば、適切な機関を紹介します。

(イ) 結果

今年度は3件の相談がありました。1件は保育所等訪問支援事業でフォローし、他2件は関係機関へつなぎました。

オ その他、他機関への支援

(ア) 支援内容

作業療法士への支援依頼に対し派遣を実施しています。

(イ) 派遣先

伊東市子育て支援課 療育教室

静岡県立特別支援学校伊東分校

東伊豆町療育教室

社会福祉協議会 放課後児童健全育成事業

教育委員会 教育指導課 特別支援教育アドバイザー

(ウ) 結果

各依頼先からも令和 7 年度も依頼をいただきました。依頼先の意向に応じた対応が出来ているのではないかと感じております。より複雑な課題にも対応できるよう、研鑽を積んでいきます。

3 クローバー利用実績

(1) 児童発達支援

	令和 5 年度		令和 6 年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4 月	70	54.0	98	75.3
5 月	68	48.5	93	66.4
6 月	61	50.8	85	70.8
7 月	54	41.5	106	75.7
8 月	69	53.0	79	60.7
9 月	71	59.0	89	74.1
10 月	79	56.0	111	74.0
11 月	77	64.1	97	80.8
12 月	80	61.5	98	81.6
1 月	98	70.0	98	81.6
2 月	85	71.0	97	80.8
3 月	99	82.5	101	77.6
合計/平均	911	59.2	1152	74.95

(2) 放課後等デイサービス

	令和 5 年度		令和 6 年度	
	利用者延人数	利用率 (%)	利用者延人数	利用率 (%)
4 月	216	86.4	203	92.2
5 月	253	93.7	216	93.9
6 月	259	99.6	175	87.5
7 月	250	113.6	196	85.2
8 月	211	105.5	142	74.7
9 月	231	111.0	189	90.0
10 月	186	84.5	209	90.8
11 月	228	103.0	182	86.6
12 月	206	103.0	181	90.5
1 月	210	105.0	188	94.0
2 月	224	106.0	184	92.0
3 月	176	83.8	173	82.3
合計/平均	2,650	99.5	2,238	88.3

(3) 保育所等訪問支援（利用者延人数）

	令和 5 年度	令和 6 年度
4 月	14	16
5 月	13	14
6 月	19	15
7 月	0	9
8 月	2	0
9 月	14	13
10 月	11	9
11 月	14	14
12 月	11	9
1 月	6	9
2 月	10	14
3 月	9	14
合計	123	136

第5 伊東市重度障害者デイサービスセンターひだまり

1 生活介護事業

(1) 総括

ひだまりでは昨年5月からのコロナ感染症5類以降も、感染症対策はほぼ継続した対応を行い、ご家庭との連携の基に運営して参りました。

6月に利用者職員数名のコロナ罹患者があり、1週間閉鎖対応致しました。7月は閉鎖まで至らずとも利用者職員数名のコロナ罹患者がありました。登録者20名のスタートで延べ利用人数は4,075名(1日平均15.9名)となりました。

ひだまり30周年を記念し、保護者も参加してのバス旅行を実施しました。車内や外出先で利用者・保護者と懇親を通じて貴重な体験となりました。一方、重点目標として挙げた個々の意思決定支援に関しては、研修にて評価キットを使用してのアセスメントを利用者に行いました。意思の形成や表出が難しい方達が多く、積極的な支援まではまだ届きませんが、利用者へのより身近な支援者として利用者の思いを共有し肯定的に向き合うことで、より生活がしやすい状況を創りました。それによりゆっくりではありますが、個々の成長が感じられました。

(2) 取組と成果

ア 個別支援計画はご家庭へのアンケート実施やケア会議で出された課題や評価キットを使用してのアセスメントに対し、ケアプラン・モニタリングを行いました。体重減や運動量の確保等の生活習慣面の改善に至るまでは、成果が出にくい項目もありますが、ご家庭と事業所間の現状と課題について確認できました。

イ 健康管理は日々のバイタル測定、体重測定、感染症予防対策はもちろん、月1回の医師との健康相談や歯科衛生士による口腔ケア相談や歯科治療を行い、健康の維持に繋がっております。

ウ 1年間、利用者の大きな事故もなく、散歩や室内歩行等の身体運動を中心にして体力アップを目指しました。ヨガ的運動を取り入れることにより、利用者職員の一体感を引き出しています。日々のラジオ体操も、誘導や見本を示すことで動作の広がりが出て、活力の向上に繋がっています。

エ 作業に関しては地域の方々のご協力を得て、リサイクル品回収の増量、タオルや古シーツのご寄付も増え、雑巾縫いや清拭布作り等の作業を行っています。個々の工賃向上にも繋がっています。園芸班では多肉植物の植栽、大根、ローリエ等にも取り組みました。

オ マスク着用に関しては難しい方も多いのですが、感染症対策を講じ

た上で、特急電車に乗り県外への外出を行いました。今後も体験を重視し、外部との接触も図りたいと考えます。

カ 福祉避難所としての指定は受けていませんが、緊急時の対策として備品や食料品の購入を順次行っています。

キ 虐待防止、身体拘束検討委員会及び研修会を行いました。

(3) 実施状況

ア 外出活動

実施日	目的地	内 容	参加人数
4. 1 5	ぐらんぱる公園 1 班	体験	8
4. 1 6	ぐらんぱる公園 2 班	体験	9
5. 2 1	いちご狩り① 熱川	体験	1 0
5. 2 2	踊り子で行く小田原旅行	体験	5
5. 2 3	いちご狩り② 熱川	体験	1 0
7. 2 6	誕生日外出 伊東市内	体験・食事	1
9. 2 6	長浜海浜公園 1 班	体験	6
9. 2 7	長浜海浜公園 2 班	体験	7
1 0. 1 1	長浜海浜公園 3 班	体験	6
1 1. 5	誕生日外出 函南	体験・食事	1
2. 1 4	誕生日外出 小室山	散策・食事	2

イ 行事

実施日	内 容	参 加 者 数			
		利用者	家族	職員	その他
8. 2 0	ひだまり夏祭り	1 9	0	1 4	0
8. 2 2	クッキング パン作り	1 7	1	1 4	0
9. 2 9	伊東市ふれあい広場	2	4	2	0
1 0. 2 5	ひだまりハロウィンパーティ	1 8	0	1 4	0
1 2. 2 0	ひだまりクリスマス会	1 9	1 5	1 4	0
1. 6	書初め	1 5	0	1 4	0
1. 1 0	初詣	1 4	0	1 2	0
2. 3	節分（豆まき）	1 8	0	1 4	0
3. 2 6	小室みんなでフェス	5	0	4	0
3. 3 1	花見	1 9	0	1 3	0

ウ 地域交流活動

実施日	内 容	参加利用者数
1 2 . 3	障害者週間作業作品配布 (リサイクル品回収コース)	1 8

(4) 利用状況

	利用延人数及び利用率				開所日数		平均利用者数／日	
令和	5 年度 人数	利用率	6 年度 人数	利用率	5 年度	6 年度	5 年度	6 年度
4 月	333	83.3	379	86.1	20	22	16.6	17.2
5 月	394	85.7	385	83.6	23	23	17.1	16.7
6 月	381	86.5	341	85.2	22	20	17.3	17.0
7 月	355	84.5	250	54.3	21	23	16.9	10.8
8 月	375	81.5	341	77.5	23	22	16.3	15.5
9 月	357	85.0	351	83.5	21	21	17.0	16.7
10 月	382	86.8	375	81.5	22	23	17.3	16.3
11 月	371	84.3	348	82.8	22	21	16.8	16.5
12 月	308	81.0	325	81.2	19	20	16.2	16.2
1 月	342	85.5	301	75.2	20	20	17.1	15.0
2 月	339	80.7	334	83.5	21	20	16.1	16.7
3 月	343	81.6	345	82.1	21	21	16.3	16.4
計	4,280	83.8	4075	79.7	255	256	16.7	16.0

2 日中一時支援事業

(1) 総括

令和3年1月、ひだまりと碧の園はコロナ感染症による集団感染を経験しました。事業所間の移動を極力抑え感染予防を図るために、令和4年4月よりひだまり日中一時がスタートしました。重い障害のある方の環境変化への対応は困難で、時間で事業所間移動することは大きなストレスをもたらします。

利用者数から見れば少人数ではありますが、そのような人達の居場所として、また家族の就労継続や緊急時にお預かりできる空間として、在宅の障害者にとっては重要な場所になっています。そして、碧の園短期入所の定員が一杯である時に過ごせる機能も果たしました。

(2) 利用状況

	令和5年度利用人数	令和6年度利用人数
4月	70	69
5月	71	72
6月	71	69
7月	63	50
8月	74	76
9月	70	69
10月	85	62
11月	73	62
12月	59	70
1月	58	51
2月	67	68
3月	73	68
年度合計人数	834	786

第6 伊東市児童・身体障害者福祉センターはばたき

1 伊東市障害者デイサービス

(1) 総括

デイサービスでは、在宅における知的、精神、身体の方の自立と生活の質の向上を目指し、創作活動を通してやる気や自信を持てるよう支援し、身体的機能維持向上のためリハビリ訓練、余暇活動の提供や利用者とその家族の相談業務の充実を図り、生活の質の向上を目指し支援しました。

新型コロナウイルス感染法上の第5類移行後、ボランティアの交流の受け入れを再開致しました。創作活動については職員が色々な題材等を用意し提供しました。

(2) 実施状況

ア 研修・ボランティア等受入状況

月日	種別	団体名等	人員	活動内容
8月20日、9月19日、 1月22日、30日	ボランティア	黒澤様	1	笑いヨガ、ありがとう絵葉書

イ 創作活動報告

(ア) 音楽活動

a 基本項目 年間実施回数 17回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	71	43	114	リズム遊び、ハンドベルなど
令和5年度	63	42	105	リズム遊び、ハンドベルなど

c 本年度の総括

ハンドベルを中心に「きらきら星、赤鼻のトナカイなど」を練習し演奏できるようになりました。楽器を奏でリズムにのって楽しく活動ができました。

d 次年度への課題

音楽講師によるピアノ演奏を通じ、音楽を楽しんで頂けるよう支援します。

(イ) 絵画

a 基本項目 年間実施回数 19回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	62	54	116	季節の花、花火など

令和 5 年度	71	59	130	季節の果物や花など
---------	----	----	-----	-----------

c 本年度の総括

季節の花や花火などを描きました。伊東市芸術祭やはばたき芸術祭へ出展、展示を行い家族の方に日頃の活動成果を観ていただくことができました。

d 次年度への課題

絵画講師の不在、絵画に参加できる利用者が減ってきた為、終了とします。

(ウ) 紙工作

a 基本項目 年間実施回数 36回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和 6 年度	150	74	224	四季の壁飾り
令和 5 年度	138	109	247	みんなのお祭り、ハロウィンなど

c 本年度の総括

皆さんと意見を出し合い楽しみながら四季の壁飾りを作成しました。また、はばたき芸術祭に展示し家族の方にも見ていただき喜んでいただきました。

d 次年度への課題

曜日に関係なく皆様に参加して頂き、はばたき芸術祭に向けて作品作りをしていきます。

(エ) 陶芸

a 基本項目 年間実施回数 33回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和 6 年度	114	78	192	宇宙等(芸術祭に向けた作品)
令和 5 年度	140	103	243	来年の干支、海の生物等

c 本年度の総括

伊東市芸術祭に向け「宇宙」を題材にした作品制作を行いました。参加者全員で協力し石粉粘土で模型を作り、色塗り、ニス塗りを行いました。伊東市芸術祭、はばたき芸術祭に展示を行い家族や地域の方に見ていただくことができました。

d 次年度への課題

陶芸講師の不在、陶芸に参加できる利用者が減ってきた為、終了とします。

(オ) 華道

a 基本項目 年間実施回数 11回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	10	21	31	アルストロメリア、スターチスなど
令和5年度	12	22	34	ガーベラ、スプレーカーネーションなど

c 本年度の総括

講師の方が見えられていないため、花器ではなく、月に1度オアシスに季節の花々を自分の個性を生かし楽しく生けることができました。また、怪我無く楽しく行うことができました。

d 次年度への課題

季節の花々に触れ個々の感性を活かし、生ける器はお花と合う色を選んだり、またガーデンピックを使用したり変化を楽しみながら怪我のないように十分な配慮をしていきます。

講師の方が見えられた際には、先生の助言のもと、個性を生かすことのできる作品作りに心掛けていきます。

(カ) 料理

a 基本項目 年間実施回数 0回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	0	0	0	
令和5年度	0	0	0	

c 本年度の総括

感染予防のため、中止となっています。

d 次年度への課題

衛生面や感染症のリスクにより、今後の料理は終了とする。

(キ) レクリエーション・スポーツ

a 基本項目 年間実施回数 39回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	85	186	271	ヨーヨー釣り等
令和5年度	132	231	363	ゲーム、ボッチャ、手工芸等

c 本年度の総括

利用者が楽しく参加していただけるよう、担当職員が考案したゲーム、手工芸(作品作り)などの提供を行いました。利用者同士がコミュニケーションをとりながら行えるよう支援を行い楽しく活動がで

きました。

d 次年度への課題

ゲームや創作活動を提供し、利用者同士が協力し楽しく参加していただけるよう支援していきます。

(ク) 手工芸

a 基本項目 年間実施回数 36回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	126	149	275	ステンドグラス風キラキラ飾り・スイカ風船など
令和5年度	141	135	276	こいのぼり、うちわなど

c 本年度の総括

季節を感じる作品を、個性を生かし楽しく作ることができました。また、参加者全員で協力し一つの作品を作り、はばたき館内で行った芸術祭や伊東市主催のふれあい広場にも出展し、家族の方や来場客など幅広く作品を見ていただきました。

d 次年度への課題

毎月のカレンダーや壁面作りは季節を感じる作品を提供し、個性を生かし楽しく作品作りができるように支援します。

(ケ) 所外活動（外出訓練）

a 基本項目 年間実施回数 3回 講師来所回数 0回

b 活動記録

	男性	女性	参加者	創作活動内容
令和6年度	12	12	24	マリンタウン
令和5年度	0	0	0	

c 本年度の総括

今年度より、外出訓練を再開しました。ご利用者は買い物や施設見学を楽しんでいました。

d 次年度への課題

外出することができる際には、事故等に気を付けて楽しく外出活動を行います。皆さんの希望を聞きながら計画していきます。

ウ 行事等実施報告

(ア) 行事实施記録

行事名	月 日	男性	女性	参加者
デリバリー	4月22日、5月28日、9月18日、10月3日、1月19日	16	14	30

アロマ週間	7月1日～5日、8月19日～23日、9月9日～13日	109	101	210
アイス週間	7月8日～12日、8月5日～9日	22	19	41
半日遠足	11月12日、20日、29日	12	12	24
ケーキ作り	10月25日～31日	21	20	41
クリスマス会	12月18日	5	4	9
初詣週間	1月7日～10日	16	14	30
節分週間	1月27日～1月31日	21	22	43
ひな祭り週間	2月25日～3月3日	25	19	44
全館防災訓練	5月14日、11月6日	7	9	16
	合計	254	234	488

(イ) 本年度の総括

初詣、半日遠足と短い時間でしたが外出を行いました。利用者の皆様にも楽しんで頂けました。他の行事も室内装飾や衣装など細部にまでこだわり、利用者の皆様楽しんでいただけるような企画をしました。

(ウ) 次年度への課題

感染予防をしながら、季節を感じるイベントを企画して行きたいと思います。

エ 医務的処遇報告

(ア) 健康管理

バイタルサイン測定（体温、血圧、脈、SpO2 など）送迎乗車前に体温測定を行い、到着時、昼食後、リハビリ前、入浴前にバイタルチェックを行い、血圧上昇時や発熱、頭痛、気分不快などの自覚症状が認められた場合には、再度バイタルチェックを実施しています。食欲の有無や睡眠、排尿排便の有無、顔色や活動状態なども十分観察をしました。また、脱水予防としては、水分補給を促し、利用者の健康状態の変化についても常に注意を払うようにしました。

毎回連絡帳には、バイタルの測定値を記入し、本人と家族に健康状態を把握していただくようにしました。また、家族からの情報をもとにデイサービスでの対応に役立てるように配慮しました。（家庭での体温チェック表）

血圧高値の時は、入浴やリハビリは控えていただいたり、皮膚疾患がある場合は浴槽につからずシャワー浴に変更したり、状況に応じた対応を行いました。また、発熱（体温が 37.5℃以上）がある場合、家族のいる方には早急に電話連絡し、可能な限り迎えに来ていただき受診を勧め

ました。

(イ) 口腔機能向上（口腔ケア、摂食、嚥下機能訓練）

虫歯や歯周病予防、誤嚥性肺炎の予防のためにも、食後の歯磨き、うがいを促しました。また、嚥下機能の維持及び誤嚥予防のため、昼食の前に嚥下体操を行いました。

(ウ) 健康相談

病気に関する質問や処置に関する方法について助言指導を行いました。

(エ) 体重測定

毎月1回測定を行いました。結果については連絡帳に記入を行い、現在の状況把握と各自の健康維持の参考にいただきました。また、急激な変動に対しては助言指導、各関係機関に連絡をしました。

(オ) 感染予防対策

感染対策として、利用者、職員への衛生的手洗いの指導と咳エチケットでマスク装着や手指消毒液の利用を促しました。

インフルエンザ・新型コロナウイルスについては、本人や家族がインフルエンザ・新型コロナウイルスにかかった時の対応を法人で統一した文書を作成し、家庭に配布、説明しました。利用前に発熱等の体調不良があった場合は、無理をせず休んでいただき受診を勧めました。

(カ) 服薬管理

利用者の内服薬を確認し、昼食時与薬する場合は、利用者に渡して、与薬していただきました。また、お薬手帳や処方せんを定期的に確認し、各利用者の薬物療法の必要性を理解し、常に把握するように努めました。

(キ) 医療的ケア

a 処置（爪切り）

爪切りができない利用者への爪切りを指導するとともに、入浴後や希望時に実施しました。

b 処置（皮膚疾患）

皮膚疾患においては、主治医処方の持参薬を塗布しました。患部の疼痛に対しては、状況を観察して持参の湿布薬や塗り薬などにて対応し、状態に応じて医療機関に受診を促しました。擦過傷等の時は消毒後カットバン又はガーゼにて保護処置を行いました。

c 緊急時の対応

基礎疾患のある利用者の緊急時対応で、主治医と確認しご本人や家族が安心して利用できるよう、文書にてお渡ししました。

d 嘱託医による対応

今年度も「セカンドオピニオン」という立場から許田医院の許田医師に月一回の健康相談や、デイサービスとしてできる範囲内の医療処置をしていただきました。また、職員に対しては健康診断、インフルエンザの予防接種、医療的指導、各相談に応じていただきました。

オ 機能訓練について

月、水、金曜日に機能訓練士によるリハビリを行いました。また、月に一度、理学療法士を招き、利用者と職員に対しご指導ご助言を頂き身体機能維持、向上を行いました。機能訓練士不在時には、自主リハビリの見守りを支援員が行いました。

(3) 利用実績

ア 利用登録者の推移

(ア) 本年度の利用状況

a 利用実績部門

月	新規	登録 抹消	登録 者数	事業 日数	月間延 数	欠席 者数	出席率 (%)	1日 平均
4	1	0	25	21	177	36	83.0	8.4
5	0	1	24	21	183	18	91.0	8.7
6	0	0	24	20	177	17	91.2	8.9
7	0	0	24	22	188	25	88.3	8.5
8	0	0	24	21	166	43	79.4	7.9
9	0	1	23	19	164	23	87.7	8.6
10	0	1	22	22	186	24	88.6	8.5
11	0	0	22	20	174	23	88.3	8.7
12	0	0	22	19	152	33	82.1	8.0
1	0	0	22	19	163	21	88.6	8.6
2	0	0	22	18	157	18	89.7	8.7
3	0	0	22	18	140	37	79.0	7.8
年間	計	計	現在	合計	合計	合計	年平均	年平均
	1	3	22	240	2,027	318	86.4	8.4
男性	1	3	13					
女性	0	0	9					

b 利用登録部門

利用記録部門	男性	女性	合計	
累計登録者数	114	95	209	開設以来の登録実績

現在登録者数	13	9	22	令和7年3月31日現在
本年度登録抹消者数	3	0	3	施設入所のため等
本年度利用者数	13	9	22	1回以上の利用した方
自主通所者数	2	0	2	自己手段による通所の方
本年度完全休止者数	0	0	0	今年度1度も利用のない方
年間延べ利用者数	1,078	949	2,027	年間利用者総数
年間出席率	86.4%（出席者 2,027 名・欠席 318 名）			

c サービス提供部門

サービス提供部門	算出データ			
年間食事提供実績	食事受給者数（今年度食事サービスを受けた方） 〔受給者数〕 22 名（男性 13 名・女性 9 名）			
	総提供食数 1,978 食 （常食 1,684 食・刻み食 294 食・ペースト食 0 食）			
年間送迎実績	総運行回数（大ワゴン車 471 回、ワゴン車 433 回、 車イス車両 170 回） 総利用人数（大ワゴン車 1,862 名、ワゴン車 1,405 名、車イス車両 170 名）			
年間入浴サービス実績	令和 7 年 3 月 3 1 日現在			
年間延べ利用者数	利用形態	対象 者数	延べ 人数	今年度 1 回以 上入浴された 方（登録抹消者 を含む。） 合計 14 名
男性 555 名				
女性 427 名				
合計 982 名				
1 日平均 4.1 名				
1 日当たり	機械浴	5	267	
最大 6 人最小 0 名				
機能訓練実績	機能訓練士指導総数件 874 件 男性：587 件 女性：287 件			
	自主訓練総数 338 件			

(イ) 利用者の基本状況

a 障害等級分布（令和7年3月31日現在）

	男性	女性	合計
身体1級	4	1	5
身体2級	3	1	4
療育手帳A	3	7	10
療育手帳B	2	0	2

精神手帳 1 級	1	0	1
精神手帳 2 級	0	0	0
なし	0	0	0
合計	13	9	22

上記に加えて、重複して所持している方

	男性	女性	合計
療育手帳 A	1	1	2
療育手帳 B	1	0	1

b 移動形態分布（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

移動形態	男性	女性	合計
（車椅子常用者）移動の際に必ず車椅子の方	5	0	5
（車椅子併用者）室内等では歩行移動も可能な方	1	0	1
（歩行介助者）車椅子ではなく介助が必要な方	0	0	0
（装具使用者）歩行できるが装具等が必要な方	1	3	4
（自立歩行者）歩行レベルが高く自立域の方	6	6	12
合計	13	9	22

c 身体状況分布（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

障害状況	男性	女性	合計
両下肢機能障害	1	0	1
両上下肢機能障害	2	1	3
知的障害	6	8	14
右上下肢機能障害	0	1	1
肢体不自由	1	0	1
運動器不安症	1	0	1
ADL 低下・嚥下機能低下	1	0	1
心臓機能障害・アイゼンメンガー症候群	1	0	1
右下肢三頭筋亢進・右足関節背屈制限	0	1	1
高次脳機能障害	1	0	1
左上下肢機能障害	2	0	2
右眼眼圧異常	1	0	1
腎臓機能障害	1	0	1
両内耳性難聴	0	1	1
ひきこもり	1	0	1
合計	19	12	31

※重複して障害を持つ方も含みます。

d 障害要因疾病分布（令和7年3月31日現在）

要因疾病	男性	女性	合計
脳血管障害	1	1	2
ダウン症	0	3	3
脳性麻痺	1	1	2
頭部外傷	1	0	1
知的障害	4	2	6
統合失調症	2	0	2
精神発達遅滞	0	1	1
巨細胞封入症	0	0	0
慢性腎不全	1	0	1
変容性骨異形成症	1	0	1
筋ジストロフィー	1	0	1
ファロー四徴症心室中隔欠損	1	0	1
左被殻出血	0	1	1
合計	13	9	22

e 利用者居住地分布（令和7年3月31日現在）

居住地区	男性	女性	合計
松原	3	0	3
宇佐美	4	2	6
萩	0	1	1
十足	3	0	3
富戸	0	2	2
湯川	1	0	1
吉田	0	1	1
竹の内	1	1	2
玖須美元和田	0	1	1
岡広町	0	1	1
竹の台	1	0	1
合計	13	9	22

f 年齢分布（令和7年3月31日現在）

年齢範囲	男性	女性	合計
18歳未満	0	0	0
18歳～19歳	0	0	0
20歳～29歳	1	3	4
30歳～39歳	3	1	4
40歳～49歳	1	2	3
50歳～59歳	5	2	7
60歳～65歳	3	1	4
合計	13	9	22

平均年齢：44.3歳 男性：46.3歳 女性：41.4歳

2 伊東市児童・身体障害者福祉センターはばたき

(1) 総括

感染症の予防対策として、消毒や、換気（窓開け）を引き続き実施しており、感染拡大防止に努めています。

設備面においては、市の予算において令和3年度から実施している照明設備のLED化、老朽化した空調設備も新規の機材へ入れ替えました。空調設備の交換により夏場の電気代節約にもつながりました。

(2) 実施状況

ア 次年度への課題

新型コロナウイルス対応については、利用者が安心安全に利用できる感染対策を継続しつつ、感染法上の5類移行後は市社会福祉課の指導に従って対策を見直し、利用者の負担を軽減していきます。

照明設備のLED化推進については、市の実施計画が具体化しているので、令和7年度の計画とおり実施できるよう市・施工業者に協力します。

(3) 利用実績

区分		令和 5 年度		令和 6 年度	
利用回数・人員		回	人	回	人
1 階 体育室	福祉活動	0	0	1	8
	小計	0	0	1	8
1 階 遊戯室	福祉活動	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0
2 階 図書室	福祉活動	5	20	16	122
	会議研修	0	0	6	27
	その他	59	260	48	204
	小計	64	280	70	353
2 階 訓練室	福祉活動	23	161	18	98
	会議研修	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	小計	23	161	18	98
3 階 集会室	福祉活動	102	1,240	169	1,977
	会議研修	97	1,023	11	73
	その他	255	2,768	305	3,250
	小計	454	5,031	485	5,300
3 階 調理室	調理実習	19	122	21	137
	小計	19	122	21	137
3 階 視聴覚 室	福祉活動	36	221	116	812
	会議研修	86	844	14	75
	その他	233	1,675	231	1,422
	小計	355	2,740	361	2,309
3 階 録音室	福祉活動	17	63	76	273
	会議研修	37	100	6	17
	その他	21	94	34	160
	小計	75	257	116	450
合計	福祉活動	183	1,705	396	,
	会議研修	220	1,967	37	192
	調理実習	19	122	21	137
	その他	568	4,797	618	5,036
	計	990	8,591	1,072	8,655

3 伊東市児童館

(1) 総括

コロナウィルス感染拡大防止対策として引き続き、遊具や用具の消毒・換気をこまめに行い、すべての行事や教室について実施することが出来ました。最も大きな行事の児童館フェスタは、中央児童館と玖須美児童館で別々に開催して来館者を分散させたり、共同で行うゲームを控えたりして密を避けながら実施しました。さらに各教室は、広い部屋の使用、個別に材料や用具を使用するなどを配慮しながら実施しました。校区の小学校にイベント情報のお知らせ(ポスター掲示)をしました。

未就園児が減少する中で、玖須美児童館では近隣の保育園と連携し、作ろう遊ぼう会に参加できるよう配慮し、一般の乳幼児との交流も深めました。

比較的利用頻度の高い中央児童館では、各部屋の入場者数を常に把握し、利用者を分散して感染防止に力を注いできました。また、施設を検索するアプリ等の活用で、授乳や電車時間調整の観光客利用者が増えました。

幼稚園や小学校が統廃合されるなど少子化が進む中、子供たちの健全育成と保護者の交流・情報提供の場を今後も続けていきます。

(2) 中央児童館実施状況

ア 月行事

月	内 容	参加 人数	月	内 容	参加 人数
5	わくわくデー	130	12	お飾り作り(予約制)	14
8	習字教室(予約制)	8	12	書初め教室(予約制)	7
10	ハロウィンちょこっと ゲーム(26.27開催)	122	1	新春おみくじ運だめ し	63
12	クリスマスゲーム大会 &プレゼントウィーク	137	3	お楽しみ会	44
年間計					525

(ア) 本年度の取り組み

児童館フェスタは、本年度も児童福祉週間中にわくわくデーとして児童館を知ってもらおうと共に、子供たちに楽しんでもらえるようにゲームを企画・実施しました。

外部から講師を迎える行事に関しては、飲食を伴わない習字教室を開催しました。

(イ) 次年度への課題

社会が with コロナの生活様式になりつつある中、安全安心を心がけながら、子供たちが楽しい時間を過ごせる行事を提供していきたいと思います。

イ 折り紙教室（第4土曜日）

月	内 容	参加人数
4	こいのぼり	9
5	ケーキ型ギフト BOX	19
6	ミッキー&ミニーの七夕飾り	13
7	開くと花火やお花になる「せんす」	5
8	(休み)	
9	三角ピラミッドのポプリ入れ	2
10	ハロウィン紙風船	37
11	クリスマスツリー	1
12	お飾り教室	16
1	遊べる折り紙 こま作り	2
2	おひな様を折って吊しびなを作る	3
3	ちいかわランドセル	0
年間計		107

(ア) 本年度の取り組み

持ち帰って飾りやすいような工夫をしました。折り紙好きの女子小学生や幼児親子の参加が多くあり、熱心に取り組んでいました。

(イ) 次年度への課題

男女問わず興味を持てるような作品を考え、折り紙を通して達成感や満足感が得られるよう工夫していきます。

ウ あそぼうよ！（第3土曜日）

月	内 容	参加人数
4	じゃんけんであそぼう！	0
5	とばしてあそぼう！	3
6	室内ゲームであそぼう！	5
7	スライムを作ろう！	13
9	シャボン玉であそぼう！	5
10	ポッチャを楽しもう！	10
11	風船バレーであそぼう！	10
1	お正月遊び(すごろくであそぼう！)	4

2	昔からのあそび(けん玉であそぼう！)	1
3	昔からのあそび(だるまおとしであそぼう！)	12
年間計		63

(ア) 本年度の取り組み

昨年度から小学生を対象とし、簡単な遊びや伝承遊び等を紹介し、遊びの幅が広がっていくように企画しました。

(イ) 次年度への課題

やってみたら楽しい、こんな遊びもあるのかという体験を大切にしていって、一人でも参加出来て楽しめる遊びを提供していきます。また、未就園児へのバースデーカードプレゼントは、継続していきます。

エ ハンドメイド（第2土曜日）

月	内 容	参加人数
4	ふきごま	4
5	母の日プレゼント	12
6	紙コップUFO	5
7	スクイーズ	17
8	(休み)	
9	カラフルしおり	9
10	ハロウィン工作	3
11	クリスマスオーナメント	9
12	お飾り教室(予約制)	14
1	毛糸のカップケーキ	6
2	紙コップコプター	4
3	くるくるレインボー	3
年間計		86

(ア) 本年度の取り組み

昨年度より参加人数はだいぶ増え、子供たちは当日教室に参加する目的で来館し、作品を作り上げる楽しさを十分に味わっていました。女子が多く、きれいでかわいい作品が、人気でした。

(イ) 次年度への課題

引き続き感染症対策を行いながら、安心安全に「作る喜び」や「遊ぶ楽しさ」を味わえるような題材選びや環境を工夫していきます。男子の参加を増やしていきたいです。

オ 来館者人数

月	来館者人数	月	来館者人数
4	646	10	583
5	656	11	519
6	570	12	566
7	696	1	483
8	757	2	611
9	530	3	890
年間計			7,507

(3) 玖須美児童館実施状況

ア 季節行事

月	内 容	参加人数
4	わくわく 1 day(午前・午後)	64
7	縁日ごっこ	79
12	クリスマス会	36
1	新春お楽しみ週間	64
3	お楽しみ会	28
年間計		271

(ア) 本年度の取り組み

児童館フェスタは、わくわく 1 day(午前・午後の部)として開催したり、集会で行うものと週間で行うものなど行事の持ち方や内容を工夫したりして楽しめるようにしました。

(イ) 次年度への課題

内容を考慮しながら引き続き行います。ポスターの掲示、新聞掲載、子供たちへの声かけ等周知に努めます。

イ 幼児の作ろう・遊ぼう

月	内 容	参加人数
4	絵本・ふれ合い遊び	14
5	うた遊び・お散歩ワンちゃん	10
6	リトミック①	17
9	運動会ごっこ	18
10	リトミック②	17
12	お話会	18
1	リトミック③	13
2	ねこのキーホルダーを作ろう	8

3	お店屋さんごっこ	16
年間計		131

(ア) 本年度の取り組み

子供の減少や1～2歳児から就園する子が増えているため、参加人数が減っていますが、作ろう・遊ぼうの週間の中で、幼児も参加しやすい工夫をしました。

(イ) 次年度への課題

引き続き、参加しやすい日程や内容の工夫をし、近隣の保育園も無理なく参加できるようにします。

ウ 作ろう・遊ぼう

月	内 容	参加人数
4	ボッチャで遊ぼう	10
5	保冷剤で作る芳香剤	28
6	飛び出すひまわり	16
7	七夕週間	25
8	絵を描こう週間(グラスアート)	35
9	卓球大会	11
10	ハロウィン週間	61
11	クリスマス飾り作り週間 (ランプシェード・クリスマスポット)	40
12	お飾り作り	15
1	折り紙ではらぺこあおむしを作ろう	7
2	くつ下人形を作ろう	21
3	フォトフレーム作り	9
年間計		278

(ア) 本年度の取り組み

一部の行事を週間にする事で、より多くの子供たちが参加出来るようにしました。

(イ) 次年度への課題

引き続き、子供たちの状況をふまえ、参加しやすい日程や内容の工夫をします。

作品の展示、ポスターの掲示、声かけなどの周知も積極的に行います。

エ Let's Enjoy!

月	内 容	参加人数
4	アニマルとヒンメリ	26
6	ゲームとフラワーアレンジメント	11
8	野菜クイズとオリンピックゲーム	14
10	Halloween!	16
12	クリスマス オーナメントを作ろう	16
2	Happy せつぶん	8
年間計		91

(ア) 本年度の取り組み

楽しい外国と日本のイベントに簡単な英語の会話や表現をつかったゲームをしました。

(イ) 次年度への課題

ゲームを通して、引き続き簡単な英会話を取り入れた子供たちの関心のある楽しい内容を考えていきます。

オ 来館者人数

月	来館者人数	月	来館者人数
4	358	10	334
5	237	11	274
6	241	12	310
7	313	1	210
8	245	2	214
9	253	3	310
年間計		3,299	

令和6年度

さくらグループ拠点区分

事業報告書

第1 さくらグループ（共同生活援助事業）

1 総括

利用者の高齢化に伴い加齢による心身の機能低下や、持病治療の疾病対策等の健康管理と虐待再発防止に向けた取組を重点的課題とし令和6年度は支援を行いました。世話人や生活支援員による日常生活全般に関するサービス提供を行い、地域社会において、安全で安心できる暮らしへの配慮を行っています。また、虐待防止再発に向けた取組として、職員の虐待事例を基にした勉強会の開催、ウェブ研修、外部研修参加を強化し職員の意識と知識向上に努めました。

引き続き新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を行いながらの生活環境でしたが、食事面において希望メニューや個別での対応をできる範囲で実施しました。また、感染者が発生した状況により昼間の通所先に行くことができない日は、グループホームにおいて日中支援の職員体制を整え、サービス提供を実施しました。

令和6年8月に4名、9月に5名、12月に2名、3月に2名の方が新型コロナウイルス感染症にまた、12月に8名の方がインフルエンザA型に罹患し感染症拡大防止対策の対応を行いました。

2 実施状況

（1）内容と効果

ア 安心した生活のための対応

（ア）感染防止対策のもと、楽しく生活できるよう個人の趣味嗜好を重視した支援を心掛け、ストレスの軽減や精神面の安定を図りました。

（イ）手洗い、消毒、うがい、定期換気等の感染症予防対策を実施しました。

イ 健康の管理

（ア）朝の検温測定（冬期は夕方も実施）、酸素濃度測定その他、個々に必要とする方の血圧測定や排便状況、血糖値測定の確認を、ご本人各ホームのスタッフで行い、体調面の把握に努め、通院時のデータになるよう把握に努めました。また、日中の通所事業所と検温数値の情報共有にも努めました。

（イ）急病時の通院支援が必要な時は、サービス管理責任者、生活支援員、ホームスタッフ及びバックアップ施設によるサポートを行いました。

（ウ）定期的な通院支援が必要な利用者には、ヘルパー付添いやホームスタッフ、生活支援員、サービス管理責任者等による支援を行いました。

(エ) 継続的な疾病治療や薬の管理が必要な利用者へのサポートを、医師の指示のもと行いました。

(2) 職員研修

ア 虐待防止研修を実施し、支援が困難な利用者の情報共有に関することや、不適切支援事例のロールプレイの検討等の研修を行いました。

イ 事業所内の虐待防止委員会の体制を再構築しました。委員会参加者は各グループホームの代表者、虐待防止マネージャー、管理者です。毎月委員会を実施し、ホームの状況の情報共有や、困っていること、研修等について話し合っています。

ウ 各ホーム会議は情報共有、意見交換を含め毎月開催しました。

(3) 金銭の管理

ア 預貯金の管理について

(ア) 入出金への対応、また金銭管理の方法について利用者への支援を行いました。

(イ) 預金残高報告書を作成し、保護者への情報提供を行い、安定した経済活動が維持できました。

イ 利用者への支援について

(ア) 計画的な金銭の使い方や小遣い管理等の支援を行うことで、安定した入出金ことができました。

(4) 防災関係について

ア 年2回防災訓練を実施しました。

3 さくらグループ利用状況

さくら荘 定員 9名	令和5年度		令和6年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4月	263	97.4	217	80.3
5月	262	93.9	229	82.0
6月	263	97.4	218	80.7
7月	243	87.0	220	78.8
8月	259	92.8	205	73.4
9月	266	98.5	211	78.1
10月	275	98.6	236	85.0
11月	263	97.4	222	82.2
12月	266	95.3	230	82.4
1月	256	91.7	231	82.7
2月	218	83.5	194	77.0
3月	214	76.7	206	73.8
合計／平均	3,048	92.5	2,619	79.7

* 2月11日付け（1名退所、碧の園入所）

せざか荘 定員 7名	令和5年度		令和6年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4月	210	100	210	100
5月	212	98.1	217	100
6月	210	100	206	98.0
7月	217	100	217	100
8月	213	98.1	193	88.9
9月	210	100	199	94.7
10月	217	100	217	100
11月	210	100	210	100
12月	213	98.1	215	99.0
1月	213	98.1	212	97.6
2月	203	100	196	100
3月	217	100	217	100
合計／平均	2,545	99.3	2,509	98.1

* 8月（1名入院）

* 9月（1名入院）

ふ じ の 花 定員 4 名	令和 5 年度		令和 6 年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4 月	119	99.1	120	100
5 月	121	97.5	120	96.7
6 月	120	100	120	100
7 月	121	97.6	120	96.7
8 月	116	93.5	124	100
9 月	118	98.3	118	98.3
10 月	124	100	123	99.0
11 月	120	100	120	100
12 月	122	98.3	123	99.1
1 月	119	95.9	118	95.1
2 月	116	100	112	100
3 月	124	100	121	97.6
合計／平均	1,440	98.3	1,439	98.5

か え で 定員 10 名	令和 5 年度		令和 6 年度	
	延べ人数	利用率 (%)	延べ人数	利用率 (%)
4 月	296	98.6	297	99.0
5 月	309	99.7	306	99.0
6 月	299	99.7	297	99.0
7 月	308	99.4	307	99.0
8 月	298	96.1	304	98.0
9 月	287	95.6	297	99.0
10 月	284	91.6	307	99.0
11 月	268	89.3	291	97.0
12 月	277	89.3	309	99.6
1 月	277	89.3	301	97.0
2 月	287	98.9	277	98.9
3 月	306	98.7	306	98.7
合計／平均	3,496	95.5	3,599	98.6

* 1 1 月（1 名入院）

令和 6 年度

奥野苑拠点区分

事業報告書

第1 特別養護老人ホーム奥野苑

1 総括

特別養護老人ホーム奥野苑においては、一年を通して、感染症対策を講じてきました。令和6年5月～6月、令和6年8月～9月、新型コロナウイルス感染症が施設内にて発生しました。その後、感染症対策を更に強化することで、10月以降感染症は確認されませんでした。

令和6年度は、退所者が14名でしたが、優先入居上位者を奥野苑短期入所生活介護事業所で長期利用できるよう調整し、特養の空床が出た翌日には即入居ができるようにすることで、入退所における空床は0となりました。3件の入院による空床が、延べ20日ありましたが、年間目標の96%を超え、99.89%の利用率を得ることができました。

2 実施状況

(1) 入居者の日常生活の充実

感染症が確認されていない期間は、ご家族と積極的に面会をしていただくことで、入居者のご家族の関係性をより良好な状態へ繋げることができました。

(2) 食事について

施設は入居者の生活の場であり、食事は入居者にとって生命の源であるとともに最大の楽しみであることを常に念頭に置き、季節感のある変化に富んだ食事を提供できるように心がけました。

また、個々のアセスメントに基づいた栄養ケアプラン作成に取り組み、食におけるニーズの確認やその課題における共通認識から多職種で連携し入居者の栄養改善及び処遇向上に努めました。

(3) 保健・衛生について

入居者が安心して生活ができるよう日々の健康管理を行いました。日々の介護、看護の中で嘱託医である高野医師の指導の下、確実なテクニックや知識、対策の検討を重ね、新型コロナウイルスや他の感染症についても皆で共有し、急変時においても迅速な対応をすることができました。

(4) 防災対策について

火災や大規模災害に備えるため5月に総合防災訓練を実施しました。実施に伴い伊東市消防団第2方面隊（川奈・吉田・荻・十足）の協力を得ることができました。特養で感染症が発生していたことから特養の避難訓練は実施せず、デイサービス及びケアハウスのみ避難訓練を実施し、炊き出し訓練については全職員で実施しました。

(5) 施設内修繕について

特養 2 階洗濯室の業務用洗濯機 2 台、業務用乾燥機 2 台、汚物用洗濯機 1 台更新しました。

3 利用実績

(1) 延べ利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 6 年度	1,500	1,550	1,499	1,550	1,550	1,500	
令和 5 年度	1,477	1,550	1,500	1,550	1,550	1,497	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	1,550	1,481	1,550	1,550	1,400	1,550	18,230
	1,521	1,500	1,537	1,550	1,450	1,550	18,232

(2) 面会者来苑状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 6 年度	40	28	33	37	52	15	
令和 5 年度	49	30	35	49	38	9	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	45	42	42	42	38	32	446
	39	34	40	35	26	19	403

(3) 月別入退所者数

	入所の状況					退所の状況		
	家庭	病院	老健	養護老人ホーム	有料老人ホーム	死亡	病院	家庭
4 月	2					2		
5 月	3					3		
6 月								
7 月								
8 月	2					2		
9 月	2					2		
10 月								
11 月	4					3	2	
12 月	1							
1 月								
2 月								
3 月								
計	入所者数 14 名					退所者数 14 名		

第2 奥野苑指定短期入所生活介護事業所

1 総括

令和6年5月～6月、令和6年8月～9月に新型コロナウイルス感染症が施設内にて発生し、事業を一時縮小または休止したことで大幅な稼働率の低下となりました。感染症が発生することで稼働率に大きな影響を及ぼすことから特養の優先入居上位者を奥野苑短期入所生活介護事業所で長期利用できる人数を拡大し、感染症に影響されない事業運営に取り組み、年間目標の85%を超えることができました。

2 利用実績

	令和5年度（延べ利用者数）			令和6年度（延べ利用者数）		
	一般	介護予防	計	一般	介護予防	計
4月	487	0	487	401	0	401
5月	529	0	529	484	0	484
6月	511	0	511	523	0	523
7月	602	0	602	640	0	640
8月	608	0	608	544	0	544
9月	322	0	322	342	0	342
10月	419	0	419	546	0	546
11月	519	0	519	474	0	474
12月	598	0	598	524	0	524
1月	605	4	609	608	0	608
2月	463	0	463	558	0	558
3月	164	0	164	585	0	585
計	5,827	4	5,831	6,229	0	6,229

第3 奥野苑デイサービスセンター

1 総括

令和6年度は人材不足継続のまま、新規利用者の依頼はあるものの、受け入れできない状況もあり延べ人数を前年より伸ばすことができませんでした。また、同施設内でコロナ感染者が確認されたため利用を控える利用者もいましたが、デイサービス内では感染が影響することなくサービス提供を継続することができました。年間行事に関しては、万全に感染対策を行いながら計画どおりに開催でき利用者から大変喜ばれました。

2 年間実施行事

	行事名	内容
4 月	寿司バイキング	従来の回転寿司は、感染予防の観点より回転レーンを使用することができませんでしたが、各種ネタから選んでいただき召し上がっていただきました。
5 月	端午の節句	兜飾りを出し、こいのぼりを上げ、菖蒲湯に入ってもらい、柏餅を提供しました。
7 月	七夕祭り	笹の葉に飾り付けし、一人一人願掛けしました。
8 月	おやつレクリエーション	アイスクリームに好きなフルーツやお菓子を盛り付け、フルーツパフェを召し上がっていただきました。
9 月	敬老会	喜寿、米寿等該当者の表彰を行いました。
11 月	焼き芋会	焼きたての焼き芋を提供しました。
12 月	クリスマス会	クリスマスケーキを食べ、ビンゴゲームを行いました。
1 月	お正月会	お正月の遊びや飾り付けし甘酒を提供しました。
2 月	節分会	豆まきで厄払いをしました。
3 月	桃の節句	雛人形を飾り記念撮影をしました。

3 利用実績

	令和 5 年度実績（延べ利用者数）			令和 6 年度実績（延べ利用者数）		
	一般	総合事業	計	一般	総合事業	計
4 月	512	36	548	555	43	598
5 月	558	40	598	542	46	588
6 月	544	41	585	496	42	538
7 月	563	39	602	509	50	559
8 月	554	44	598	479	45	524
9 月	558	40	590	473	45	518
10 月	590	41	631	526	52	578
11 月	576	42	618	476	57	533
12 月	569	37	606	442	59	501
1 月	499	35	534	416	52	468
2 月	524	40	564	424	60	484
3 月	549	42	591	453	61	514
計	6,596	477	7,073	5,791	612	6,403

第4 奥野苑ヘルパーステーション

1 総括

令和6年度もヘルパーの人材不足は継続し、利用者の受け入れについては、前年と比べ大幅な減となりました。また令和7年4月からの事業休止が決まったことで、積極的な利用者の受け入れを行うことができませんでした。

今後、法人として状況を見極めながら事業の在り方について協議し、しっかりとした方向性が出せるようにしていきたいと思います。

2 利用実績

	令和5年度実績（延べ利用者数）			令和6年度実績（延べ利用者数）		
	一般	総合事業	計	一般	総合事業	計
4月	306	245	551	221	194	415
5月	299	261	560	224	192	416
6月	294	249	543	214	167	381
7月	292	259	551	213	160	373
8月	270	239	509	204	118	322
9月	244	231	475	203	117	320
10月	234	250	484	192	122	314
11月	251	226	477	181	111	292
12月	254	228	482	180	106	286
1月	258	194	452	123	90	213
2月	259	202	461	59	57	116
3月	241	200	441	93	34	127
計	3,202	2,784	5,986	2,107	1,468	3,575

第5 奥野苑指定居宅介護支援事業所

1 総括

年度当初からケアマネジメント業務を5名体制で行っていましたが、9月末に職員1名が体調不良による長期休職に伴い、実質4名体制の中で利用

者へのサービス提供が滞ることがないように、市内居宅支援事業所へ利用者の対応を依頼し業務を遂行してまいりました。年間を通して要支援利用者の依頼は少なく、介護に移行したケースもあり昨年より減少傾向ですが、介護は昨年と変わらない人数でした。

2 実施状況

(1) 居宅サービス計画の作成

利用者の心身の状況や家族の希望などを把握し、必要なサービスを提案し、居宅サービス計画の原案の作成説明を行い、利用者や家族の同意を得られるよう努めました。

(2) アセスメント・モニタリング

利用者の状況やサービス実施状況などの情報を収集し、利用者のニーズや解決すべき課題を抽出しました。サービス事業所と情報共有することで目標達成に向け適切に対応できるよう努めました。

(3) 給付管理業務

区分支給限度額の管理に留意し、利用者の負担軽減に努めるとともに、介護報酬請求において、実績確認を行いサービス事業所との相違が無いよう努めました。

(4) 相談業務

利用者からの相談を受け、介護認定申請の援助、介護保険サービスやその他制度に関する説明を行いました。

(5) 訪問調査

伊東市から依頼のあった、要支援・要介護認定調査を実施していましたが、1名職員の休職により10月から休止しました。

(6) 職員研修

小室圏域の地域ケア会議や勉強会、主任ケアマネの企画したGSV、法定研修、市内外のオンライン研修などに積極的に参加し、職員の研鑽に努めました。

3 利用実績

	令和5年度実績		令和6年度実績	
	ケアプラン作成		ケアプラン作成	
	要支援1、2 (委託)	要介護度 1～5	要支援1、2 (委託)	要介護度 1～5
4月	28	131	21	168

5 月	27	132	21	161
6 月	28	127	20	156
7 月	26	130	21	157
8 月	26	135	20	153
9 月	29	143	19	153
10 月	28	149	19	142
11 月	28	148	17	137
12 月	25	152	15	135
1 月	25	158	15	138
2 月	24	161	16	130
3 月	23	164	15	134
計	317	1,730	219	1,764

第6 小室地域包括支援センター

1 総括

伊東市の傾向と同じく、要支援⇒要介護への状態悪化が目立ち、令和6年7月より1名増員となりましたが、思うようにケアマネジメントプラン数は増えませんでした。また、市内ケアマネージャー数の減少も相まって、委託のケアマネジメントプラン数は減少の一途を辿っています。近年、困難ケースが増加傾向にあり、相談数・ケースに関わる時間も増加傾向にあります。

地域ケア会議では『共生型居場所の創出』に向けた会議を一旦終了とし、年度末には共生型イベントを開催するなどしながら、地域住民への理解普及に努めました。また、『住民参加型』の地域ケア会議を開催し、より地域住民に身近な課題等をご意見としていただくことができました。

機関紙『こむろタイムズ』を2ヶ月に1回、圏域内の町内に回覧板で閲覧していただき、徐々に周知されてきています。

会議や研修はオンラインでの開催が基本となる中、積極的に参加しました。主な活動としては高齢者の居場所支援、サロン・認知症カフェ・チームオレング、認知症サポーター養成講座、出前講座の開催等となりました。

2 実施状況

(1) 要支援1・2 介護予防ケアマネジメントプラン

区 分	直 営	委 託
-----	-----	-----

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
事業対象者給付管理数	343	307	12	12
要支援①総給付管理数	491	569	292	233
要支援②総給付管理数	850	837	722	486
うち新規契約分	54	48	24	19
うちプラン継続分	1,630	1,665	1,002	712

(2) 会議等開催状況

運営状況	令和 5 年度	令和 6 年度	運営状況	令和 5 年度	令和 6 年度
地域づくり会議	82	108	関係団体の会議	26	25
包括会議	11	12	研修会	51	52
包括部会	10	15	その他	7	14
ケアマネ部会	4	4	合 計	191	230

3 利用実績

(1) 相談実績 (内訳)

相談件数	令和 5 年度	令和 6 年度
来所	132	123
訪問	2,131	2,359
電話	3,153	3,584
その他	369	418
合 計	5,785	6,484

(2) 相談内容 (内訳)

相談内容	令和 5 年度	令和 6 年度
介護保険 (介護予防) に関する相談	4,523	4,580
認知症等に関する相談	242	265
在宅介護に関する相談	258	310
施設入所に関する相談	138	155
医療に関する相談	812	820
住宅改修・福祉用具に関する相談	364	403
権利擁護・成年後見制度に関する相談	25	35
虐待に関する相談	7	8
その他 (家族・障害・経済問題等)	848	837
合 計	7,217	7,413

第 7 奥野苑介護予防事業所

1 総括

伊東市からの受託事業で、伊東市が行う5学年と介護認定を受けていない独居及び高齢世帯者の対象高齢者への基本チェックリストを基に、伊東市が選定した一般介護予防事業・通所型サービスC教室型対象者に対し、地域ごと（川奈・吉田・荻・十足）に教室案内を郵送、回覧板・広報いとうへの掲載を行い、参加者を募り、介護予防教室を開催しました。

教室では、参加者がいつまでも健康で生きがいを持ちながら日常生活を送り、普段の生活の中でも楽しく活用できる体操の紹介や指導を行いました。その他、栄養講座や歯科講座を実施しフレイルを予防する事への大切さを学び、地域の包括支援センターやサロンやサークル活動についての紹介も行いました。

今年度、より専門的な内容での介護予防教室運営を目指し、運動指導士・看護師を外部へ委託し実施しています。

2 一般介護予防教室開催状況

地域（会場）	参加登録	参加延数	開催期間
荻 （生涯学習センター）	23 名	189 名	4 月 11 日～6 月 27 日 毎週木曜日 10 回
川奈 （小室コミセン）	23 名	164 名	4 月 12 日～6 月 21 日 毎週金曜日 10 回
十足 （南一碧台自治会館）	17 名	148 名	4 月 8 日～7 月 29 日 第 2・4・5 月曜日 10 回
荻 （生涯学習センター）	11 名	97 名	9 月 5 日～11 月 7 日 毎週木曜日 10 回

3 通所型サービスC教室型教室開催状況

地域（会場）	参加登録	参加延数	開催期間
4 地域 （小室コミセン）	9 名	77 名	9 月 6 日～11 月 22 日 毎週金曜日 12 回
4 地域 （生涯学習センター）	7 名	59 名	12 月 5 日～2 月 27 日 毎週木曜日 12 回

第8 生活支援体制整備事業所

1 総括

伊東市からの受託事業で、歳を重ねても、認知症になっても、住み慣れた自宅や地域で生活できるよう高齢者を地域で支える仕組みづくりや助け合い活動を進め、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員として事業を推進しました。今年度は生活支援サポーター養成講座を居場所で開催し、

今までよりもより近い地域の担い手を養成できました。また、対島包括との合同の認知症サポーター養成講座、出張認知症カフェ等の新しい取組を実施することができました。

2 実施状況

(1) 生活支援サポーター養成講座の開催

伊東市高齢者福祉課、第一層及び第二層生活支援コーディネーター等の協力により、市民を対象に生活支援の担い手の養成を図りました。

開催日	場 所	内 容
令和6年6月24日(月) 令和7年2月13日(木)	かどの台カフェ 宇佐美コミセン	事業説明、地域づくり、認知症サポーター養成講座、高齢者とのコミュニケーション、会員登録

(2) 協議体会議の開催

開催日	場 所	内 容
令和6年10月11日(金)	荻 区民会館 2階	圏域内で活躍しているボランティアを集め、協議体として課題の抽出を行い、共生型居場所への協力をお願いしました。
令和7年3月12日(水)	生涯学習センター荻会館	

(3) 生活支援サポーター事業、事業報告会、フォローアップ研修の開催

令和7年1月30日(木) 市低層棟2階中会議室

サポーターの意識啓発を目的にフォローアップ研修を開催。各ボランティアの活動紹介と助け合い活動についてグループワークを行いました。

(4) 運転ボランティア養成研修の開催

令和7年1月23日(金) 午前10時～市展望ギャラリー

午後1時～4時30分

マジオドライバースクール熱海校

運転ボランティアによる活動紹介、参加者の技術習得や能力向上を図ることで意欲ある市民の育成を行いました。

(5) 運転ボランティアフォローアップ研修の開催

令和6年7月18日(木) 午後1時30分～ 市役所地下会議室

動画 KYT (危険予測トレーニング) 研修後、令和5年度の活動報告を行いました。

(6) 生活支援サービスの需給調整

実施状況	件数	支援回数
------	----	------

無償（軽微な生活支援）	43 件	196 回
有償（生活支援）	26 件	26 回

（７）関係機関とのネットワーク強化

伊東市高齢者福祉課及び第１層生活支援コーディネーター、市内各圏域第２層生活支援コーディネーターとの定例会議を開催し、連携強化及び情報共有を行いました。

（８）事業推進及び地域づくりのための啓発活動

小室圏域内の居場所（９ヶ所）・通いの場（２ヶ所）への訪問、活動支援、小室地域包括支援センター主催のサロン（１ヶ所）、認知症カフェ（２ヶ所）の活動支援を行い、事業の周知、啓発を行いました。

（９）認知症地域支援推進員

ア 認知症の人の早期発見や相談支援、地域包括支援センター等の必要な関係機関への繋ぎや地域課題の抽出

イ 認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座の開催

開催日	場 所	内 容
令和６年１０月３１日（木）	十字の園 交流ホール	対島包括と合同で認知症について正しく理解を持ち、見守ってくれるサポーターを養成しました。
令和６年１１月２９日（金）	川奈聖書教会	
令和７年１月９日（木）	市役所２中会議室	地域の保健委員を対象に講座を行いました。

ウ チームオレンジ 笑笑の運営・活動支援

（ア）毎月第二・火曜日 開催

（イ）出張認知症カフェに参加・協力を行いました

エ 認知症カフェの開催支援

（ア）認知症かふえ やぶね 毎月第二・火曜日 午後２時～４時

（イ）認知症カフェ あまなつ 毎月第三・火曜日 午後２時～４時

（ウ）出張認知症カフェを２カ所開催

令和６年１１月２２日（金） イトーピアクラブハウス

令和７年１月２７日（月） 吉田 千歳会館

オ 市及び地域包括支援センターと連携し、本人ミーティングの開催支援と協力

カ 認知症の相談窓口の周知

令和７年１月～３月まで圏域内の JA と三島信用金庫にて普及啓発グッズを設置して周知活動を行いました。

キ 認知症地域支援推進員 定例会出席

令和 6 年度

ケアハウス拠点区分

事業報告書

1 総括

ケアハウスハーモニーおくのでは法人の理念に基づき、安心かつ安全・充実した生活が送れるよう、心身両面での支援に努めました。
感染対策を優先しつつ、重点目標の達成に向け、職員一丸となり取り組みました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

- (1)「感染予防対策の継続と発生時における対応力の強化」については、様々な情報収集に努めるとともに、館内消毒・入館時の消毒の徹底を継続しました。ほか感染症発生を想定してのシミュレーションでは、ゾーニング・ガウンテクニックを実施しました。結果、一人の罹患者も出すことなく一年を過ごせたことは成果と感じます。
- (2)「高齢者ケアに関する知識の向上」については、研修に参加することで知識を高め、入居者が安心して生活できるよう、身体的・精神的・社会的なサポートを目指し、必要に応じ医療・介護等のサービスが受けられるよう支援し、入居者の自立とQOL（生活の質）の向上に努めました。

3 実施状況

(1) 食事について

食事は、季節感や旬の物を積極的に取り入れ、バラエティに富んだ内容となるよう心掛けました。職員献立日には、食事を更に楽しんでもいただけるよう味はもちろん雰囲気や見た目にも配慮しました。バイキングメニューでは、毎月のメニュー充実とともに食欲減退の夏期においては、入居者の喜ぶメニューを盛り込み、食欲増進と体力低下防止に努めました。さらに、入居者の嗜好や身体状況の変化を考慮し、臨機応変に対応することができました。

(2) 入浴について

月～土曜日の15:00～22:00の入浴時間に、入居者が快適に入浴できるよう準備を整えました。（夏期については日曜日シャワー浴実施）
レジオネラ水質検査も年2回実施を厳守し浴室の衛生面についても充分留意しました。

(3) 園内美化について

入居者が快適に生活していただけるよう日頃より清掃を行い、園内美化の維持・向上に努めました。

(4) 各種相談について

入居者の生活全般にわたり、各種の相談に応じるとともに必要時には関係機関の紹介等の援助も行い、日頃より信頼関係の構築に努めました。ただし、金銭に関する相談については身元引受人に連絡し施設側は関与しないことを継続して徹底しました。

(5) 緊急時の対応について

入居者の緊急事態の際は各機関と連携し、迅速な対応に努めました。
災害等に関しても日常より防災を心掛けるとともに、万一の事態に備え常に万全の管理体制がとれるよう配慮しました。

(6) 処遇上の留意点について

ア 介護予防の実践

身体機能及び認知機能の低下防止を目的として、「は一もに一新聞」を活用し紙面での脳トレや体操など個々にできる活動も取り入れ支援しました。職員も介護予防的要素を取り入れていく中で、提供するものを探求するとともに、入居者に対し必要な情報提供に努めました。

イ 季節感ある行事と外出

昨年までコロナの関係もあり行事は自粛してきましたが、今年は感染予防を踏まえながら、季節の行事も再開しました。

ウ 入居者に対する共通認識

申し送りや定期会議の中で、全体や入居者一人一人の情報共有・意見交換の実施により、共通認識の徹底に努めた対応に尽力しました。

(7) 保健衛生について

年々変化する入居者の心身状況を、バイタルチェックや日常会話等から把握することにより、早期対応に努めました。

入居者には年一回、各自かかりつけ医にて健康診断を実施していただき、一人一人の健康状態の把握に努めました。

更に状況調査を年一回行い、身体状況の把握、加えて精神面でのケアに努め、入居者の変化に対し早期発見・早期対応を心掛けました。なお、日頃より衛生面には十分な配慮を行うとともに、感染症・食中毒対策委員会を開催し、その結果を反映させ、季節性の流行病（インフルエンザ・風邪・食中毒・ノロウイルス・脱水等）に対してはうがい・手洗いの励行や水分補給等の掲示・助言により注意喚起をおこない、必要時には通院にも同行しました。また、館内の温度・湿度設定にも十分配慮しました。

感染対策として、毎日の検温体調チェック表の提出の継続実施のほか、日々の状況に応じた対応を迅速に行い、館内消毒と入館時の消毒も継続し、館内に持ち込まないように努めました。

(8) 防災対策について

毎月一回入居者・職員が一丸となり、避難訓練を中心とした防災訓練を実施しました。うち一回は夜間、二回は夜間想定により実施しました。

更に、各居室の点検指導（家具固定、暖房器具等）も適宜実施し、防災設備は業者が定期的に点検し、防災器具なども設置し非常事態

に対応できるよう配慮しました。

また、非常食や必需品の在庫・賞味期限のチェックを行い、常に万全の状態で用意しました。

(9) その他

ア 運転代行業務

受診、その他の用事で外出をされる入居者のため、月曜日～金曜日の午前（9:30 出発）と午後（3:00 出発）の二回、無償にて車を運行し外出の支援を行いました。買い物については毎週水曜日（13:30 出発）近隣スーパーへ送迎の支援を実施しました。

イ 各種委員会の実施

事故防止検討委員会、感染症・食中毒対策委員会、身体拘束適正化対策委員会を、各々 3 か月に一度開催しました。

4 延べ利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	660	682	660	682	682	630	620	600	620	620	560	620	7,636
令和 5 年度	600	620	600	620	651	630	682	660	682	682	638	682	7,747

5 月別入退去者数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	入居													0
	退去						1	1						2
令和 5 年度	入居					1		1						2
	退去	2												2

令和 6 年度

やまもも拠点区分

事業報告書

第1 ワークセンターやまもも

1 総括

開所当時より行っていた作業の見直し、取引業者の変更等就労支援施設としてより多くの工賃に結び付く作業を模索した年度となりました。時代に合ったネット販売業者との取引が下請け作業の主要となり、市内業者だけでなく、首都圏からの仕事も増えたことは観光サービスだけに頼らない作業として定着しつつあります。

また、従事する職員においては、ご利用されるすべての人が社会の一員として社会・経済・文化等のあらゆる活動に参画することを基本方針として各種委員会を活発化させ障がいのある人の権利擁護を意識する研修を多く取り入れた一年となりました。

2 重点目標に対する取組と成果

工賃向上3か年計画により令和6年度の平均工賃目標額を19,753円としました。市民病院内にあるカフェやまももでは新メニューの開発、製パン作業による販売量の増加、下請け作業の見直し、施設外での作業の導入により目標工賃を達成することができました。

また、関係機関と協力して、企業実習に力を入れた結果、一般企業等へ2名就労することができました。

3 実施状況

(1) 利用状況

開所日数 256日

ア 就労移行支援事業

(ア) 定員 10名

(イ) 登録者(令和7年3月31日現在) 8名

(ウ) 年間平均利用者数 7.9人

イ 就労継続支援B型

(ア) 定員 30名

(イ) 登録者(令和6年3月31日現在) 31名

(ウ) 年間平均利用者数 26.4人

(2) 各事業報告

ア 就労移行支援事業

- (ア) 作業活動等において、就労に必要な社会スキルや日常生活に必要な知識習得への取り組みを行いました。
- (イ) 清掃の業務受託を通じ、現場で実践しました。
施設外就労参加者数 4名
- (ウ) 一般企業への新規就労者数 2名

イ 就労継続支援B型

工賃月平均支払額	21,283円（前年度 20,880円）
----------	----------------------

- (ア) 手芸・縫製作業
 - a 利用者の作業意欲が向上し縫製以外の織り機や編み物などに積極的に挑戦することができました。
- (イ) 製パン作業
 - a 仕入れ業者の変更によりメニューの大幅な変更を行いました。
 - b 『ここからマーケット』に参加し、接客や販売、障がいに対する啓発活動及び工賃向上を目指す活動を行うことができました。
(手芸共通)
- (ウ) リサイクル作業
 - 積極的に回収へ行くことにより地域への周知に繋がりました。
- (エ) 喫茶業務
 - a 利用者同士が協力し助け合って業務を行うことができるようになり、接客にも生かされるようになりました。
 - b 店内にて手芸品、パン等を販売することによって、やまもも活動を周知することができました。
- (オ) 下請け作業
 - a リネン、タオルたたみ
6月に開所当社から請け負っていたタオルたたみの作業が終了しましたが、ステッチ付けの作業は引き続き請けることができます。
 - b 商品梱包作業
インターネット販売の商品梱包や観光地の土産物の梱包の仕事を積極的に請けることができました。
 - c 箱折作業
色々な箱折り作業を積極的に請けることができました。
 - d 施設外清掃

伊東市振興公社様からの公園清掃を9ヶ所受託し週3日の契約で清掃に回っています。地域の方々に働く姿を見てもらうことにより活動の励みとなりました。

(カ) 農作業・農産物販売

農福連携を見越し実際に農業を行う体験を行いました。

(3) 全体活動

ア 余暇支援

感染症に十分注意しながらではあるがコロナ前のように行事を行うことができ、作業活動の活力としました。

イ 防災・避難訓練

様々な災害に対する避難訓練を実施し、有事の際には落ち着いた行動ができるように訓練を行いました。

ウ 健康相談

中伊豆温泉病院検診車による健康診断を実施し、生活習慣病等の早期発見に努めました。

エ 相談支援

ケア会議の開催、保護者、関係機関との連絡を密にすることにより課題解決に努めました。

オ 自治会・互助会活動

感染症等の安全管理を徹底することで例年通りの活動を行うことができました。

カ 研修・委員会活動

(ア) 12月に感染症研修を行いました。

(イ) 虐待防止委員会を設置し、虐待防止を啓発・普及するための検討を行いました、8月に虐待防止研修を行いました。

(ウ) BCPに基づき5月にBCP研修を行いました。

(エ) 7月に身体拘束研修を行いました。

令和 6 年度利用者数実績報告書													
就労移行支援 定員10名													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
6 年度	209	214	184	197	182	173	185	160	128	132	134	132	2,030
5 年度	208	232	207	211	213	177	196	193	168	169	192	198	2,364
前年度比	1	△ 18	△ 23	△ 14	△ 31	△ 4	△ 11	△ 33	△ 40	△ 37	△ 58	△ 66	△ 334
日平均	9.5	9.3	9.2	8.6	8.3	8.2	8.0	7.6	6.4	6.6	6.7	6.3	7.9
就労継続支援 B 型 定員30名													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
6 年度	602	625	551	640	574	538	592	530	516	508	526	567	6,769
5 年度	539	604	590	565	607	548	589	599	552	547	578	570	6,888
前年度比	63	21	△ 39	75	△ 33	△ 10	3	△ 69	△ 36	△ 39	△ 52	△ 3	△ 119
日平均	27.4	27.2	27.6	27.8	26.1	25.6	25.7	25.2	25.8	25.4	26.3	27.0	26.4
2事業合計													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
6 年度	811	839	735	837	756	711	777	690	644	640	660	699	8799
5 年度	747	836	797	776	820	725	785	792	720	716	770	768	9252
前年度比	64	3	△ 62	61	△ 64	△ 14	△ 8	△ 102	△ 76	△ 76	△ 110	△ 69	△ 453
日平均	36.9	36.5	36.8	36.4	34.4	33.9	33.8	32.9	32.2	32	33	33.3	34.3

令和 6 年度

こもれび拠点区分

事業報告書

第1 生活介護事業所こもれば

1 総括

新規利用者2名を迎え登録人数は28名、平均利用者数は19名でした。賑やかさと共に利用者の高齢化等による重度化もみられ安全を考えながらの1年でした。

各委員会では利用者の個別の状況を考え活動内容の検討を行いました。朝の会は利用者中心に進め、利用者の意向に添い支援しました。

作業では重度の利用者がスイッチを押しアナウンスの声かけをすることで役割が増え、皆で取り組めるようになりました。各作業の取り組み実施状況を確認し利用者のできることが増えるよう模索しました。全体作業と個別作業を曜日で分け行うことで利用者個々の希望する作業をバランスよく行うことができました。

創作活動では季節感を大切に楽しみながら物作りを行えるよう工夫しました。イベントに使う物品や道具を手作りすることで盛り上がりました。

リハビリではグループリハビリやDVDダンスで身体を動かす活動を楽しんでもらいました。散歩はペースの合う方のグループを作り時間を分け行いました。少人数に分けていくことでゆったりと安全に対応できました。

日々安全面に配慮していましたが、利用者の転倒等がありました。職員の見守りの強化や対応の申し送りを密に行い支援しました。

2 重点目標に対する取組と成果

- (1) 各委員会（活動・作業・リハビリ）を中心に利用者個々の状況に応じた支援を行い、「できる」が自信になり楽しんで活動している利用者が増えました。利用者のやりたいという声にもできる限り対応しました。
- (2) 利用者の考えや望みを汲み取り、その思いを大切にしたい共通の支援に向け会議や日々の終礼等で情報を共有しました。日々の気づきを記録し共有しました。ケース担当を中心に利用者の気持ちを大事に、必要な支援の検討を行い丁寧に対応することを心掛けました。

3 実施状況

(1) 実施日課等

	月	火	水	木	金
午前	朝の会 入 浴 創作活動	朝の会 散歩	朝の会 入 浴 作業	朝の会 散歩	朝の会 入 浴 創作活動
午後	入 浴 作業 帰りの会	散 歩 個別活動 個別リハ 帰りの会	入 浴 創作活動 帰りの会	散 歩 個別活動 個別リハ 帰りの会	入 浴 作 業 帰りの会
その他	誕生会（随時実施）：昼食希望メニュー 手作り誕生日カード 創作活動：季節に合わせた壁面飾り・季節創作・カレンダー作り等 個別活動：アイロンビーズ・手芸・パズル・塗り絵・ゲーム デッサン・スヌーズレン等 作業：箱折り・紙袋作り・ミシン・リサイクル スイーツパック詰め・みそ汁パック作り・ラッピング レクリエーション：カラオケ・ゲーム等 ティータイム・スイーツデリバリー（随時実施） 防災訓練：時間帯不定期（1回／月） 園芸活動：花壇・こもれびファーム 中伊豆リハビリ理学療法士訪問（1回／月） 仲程医師回診（1回／月）				

(2) 行事・活動等

実施月	内容	参加人数
4月	お花見ドライブ（小室山）	23名
5月	写生大会 スイーツデリバリー 地域清掃（富戸公園） ドライブ（奥野ダム・イルカ浜）	25名 16名 20名
6月	ボウリング大会	20名
7月	七夕会 収穫祭	21名 19名
8月	暑気払い	20名
9月	運動会 ふれあい広場	23名
10月	ハロウィンパーティー 読書週間（読み聞かせ）	20名 22名
11月	171伝言ダイヤル訓練 紅葉ドライブ 交流活動（レクリエーション） 障害者週間準備（くるみボタンストラップ作成）	28名 20名 21名
12月	障害者週間パネル設置（富戸コミセン） クリスマス会	22名
1月	書初め大会 成人を祝う会 新年会（昼食デリバリー） 節分レク（豆まき）	27名 18名 19名 23名
3月	ひなまつり会 福祉大会ラッピング作業	19名 10名

4 利用実績

月	利用者数	利用人数	開所日数	平均利用者数	送迎延べ人数
4月	27	427	22	19.4	763
5月	27	444	23	19.3	825
6月	28	399	20	19.9	718
7月	28	419	23	18.2	764
8月	28	411	22	18.6	751
9月	28	423	21	20.14	763
10月	28	465	23	20.2	803
11月	28	401	21	19	665
12月	28	368	20	18.4	646
1月	28	390	20	19.5	705
2月	28	409	20	20.45	745
3月	28	425	21	20.2	760
計	—	4,981	256	19.45	8,908

第2 こもればショートステイ

1 総括

ショートステイ希望の利用者の方には面談を行い、自宅での過ごし方と変わらないよう対応し、ゆったりと穏やかな時間となるように支援しました。ショートステイの利用希望日が他の利用者の希望と重なることがありましたが、日程調整をすることで希望に沿った利用をしていただけました。ショートステイ利用前の利用者の体調確認を行い、居室の消毒や換気、清掃等の対応を強化し安心して利用できるよう努めました。急な体調不良や感染症による中止もありましたが、なるべく空所を利用してもらえよう努めました。

2 実施状況

(1) 事業内容

- ア 利用対象者：短期入所利用決定を受けている障害者
- イ 利用定員：短期入所：2名（単独型）
- ウ 支援内容

- (ア) 食事・排泄等の日常生活動作を支援しました。
- (イ) 家族、関係各機関との連絡・調整、相談受付を行いました。

(2) 効果

- ア 家族の予定等で、当日の依頼にも対応しました。
- イ 利用に関する相談や面談を行うことで、利用者に関する状況の把握ができました。

3 利用実績

短期入所年間利用者数：140名

第3 こもればショートステイ（日中一時支援）

1 総括

家族の就労や外出、入院等で利用される方が多かったです。家族の急な用事での依頼は、当日の利用希望に沿い対応しました。利用の際は検温や消毒、定期的な換気を実施し、安全に過ごしていただけるよう支援しました。

2 実施状況

(1) 事業内容

- ア 利用対象者：伊東市に在住し、日中一時支援利用決定を受けている人
- イ 利用定員：安全にお預かりできる範囲内
- ウ 利用時間：8：00～17：00まで
時間外の利用については相談に応じ対応しました。

(2) 効果

家族の介護負担軽減や当日の急な用事等に対応することで、家族の大切な時間を作ることができました。

3 利用実績

日中一時支援年間利用者数：118名

第4 相談支援センターいぶき

1 総括

利用者や家族の状態の変化に対し福祉サービスの利用を中心に成年後見制度の申請や病院への情報提供などその方の日常生活が保てるよう支援し

ました。障害のある方の生活課題は多様化しており、利用者や家族が安心して生活を送れるよう関係機関と連携して支援しました。余暇支援の開催は参加方法や活動内容を工夫し開催しました。福祉サービスの利用や生活に関する相談は対応する中で最も多いものです。状況を正確に把握しながら必要な支援を検討しました。放課後等デイサービスのニーズはあり、新たに児童発達支援及び保育所等訪問支援の希望も多く利用に向け対応しました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

利用者の希望する生活に向けてどのようなことが不安で何に困っているのかどんな生活を送りたいのかを利用者に寄り添い丁寧に話を聞き、利用者に関わる周囲の方と情報を共有し対応を検討することで安心した生活が続けていけるよう支援に努めました。

3 実施状況

(1) 活動内容

熱海市	伊東市
ふれあいコアラ教室 1 回／月 市役所サテライト相談 1 回／月 個別支援会議(119 回)	さくらんぼ教室 1 回／月 リトルキッズ 1 回／月 twinkle 1 回／月 市役所サテライト相談(2 回／月) 個別支援会議(410 回)
その他	
・おにぎりの会 1 回／月 ・菜の花会 1 回／月 ・さくらの会不定期 ・伊豆地区就業促進協議会・おおむろ連絡会議 ・地域自立支援協議会（庶務受託・知的障害部会・児童部会・重心部会・就労支援部会・伊東市防災グループ会議・放課後等デイサービス連絡会・発達ワーキンググループ会議・相談支援連絡会・部会長会議） ・圏域自立支援協議会（スーパーバイザー設置事業受託・地域移行部会） ・静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業委託	

(2) 相談内容と成果

ア 感染症対策は継続し、状況に合わせ会議や訪問、療育活動は参加方法を工夫し活動を実施しました。

イ 医療的ケアが必要な方の短期入所の希望があり、利用に向けて対応しました。また、家族の負担が大きいご家庭には気持ちに寄り添い関係機

関と連携しながら相談支援を行いました。利用者や家族にとって普段とは違う初めての事業所利用となりましたが、助言し合える日頃からの関係性を活かし、家族の意向や状況をふまえた利用ができるよう支援しました。

ウ 家族の状況の変化や利用者の自立した生活を送りたいニーズに寄り添い市内外の入所施設やグループホームを探し、見学の同行や体験を経て入所に向けた支援を行いました。不安の多い方から生活全般の支援や精神的支えが必要なケースの相談があり、生活全般の支援では継続して利用者の生活スタイルにあわせて支援しています。

エ 家庭状況の変化や親亡き後を見据え成年後見制度の利用について相談があり申請手続きや医療機関への同行等のサポートを行いました。

オ 放課後等デイサービスと児童発達支援のサービス等利用計画の作成依頼は継続して増えています。放課後等デイサービスの利用希望者は、支援学校から普通級に在籍する児童まで多岐に渡っています。

カ 強度行動障害の方の受け入れ施設での個別支援会議に参加し現状を確認しながら強度行動障害検討委員会において今後、支援できることの検討を進めています。この強度行動障害検討委員会では検討、研修、実践を継続して進めています。

キ 当センターでは主に知的障害のある方と児童の計画相談を担当しています。令和6年度作成者数は397件でした。

(3) 課題

ア 現在短期入所を利用している方が家庭復帰を含め移行する場所の目途が立たない状況も変化がありません。地域の方が必要な時に利用できるシステムづくりは地域の課題でもあります。

イ 医療的ケアや身体障害のある児童が利用できる事業所は限られ、家族の負担が大きくなっています。家族の負担軽減の為だけでなく早期療育の視点からも他児や適切な支援のある環境で刺激を受ける機会の創出は必要ですが、受け入れには人材確保や環境整備が壁となっています。希望に応えられるような体制づくりを考えていく必要があります。

ウ 放課後等デイサービスは市の保健師 や医療機関、教育機関、保護者間同士の繋がりでその名前が周知され支給の判断に柔軟性があり、普通級から特別支援学校に在籍する児童まで幅広く利用しています。放課後等デイサービスの支援を必要としている子どもたちが療育を受けられるようサービスの目的が正しく地域に浸透し障害や発達に困り感のある子どもたちが自身の特性とうまく付き合いながら社会生活を送れるよう事業所や家族、関係機関との連携が必要です。

エ 集団生活に課題を抱える幼児、児童が増えており保育所等訪問支援を利用し、環境整備や関わり方等の支援を通してフォローアップが必要となっています。

オ 一人暮らしの方や不安がある方の金銭管理の相談や病院受診に関する相談が多くありました。どちらも法定サービスや制度上では補えない部分がある為、今後に対応せざるを得ない事態が予想されます。事業所としてどこまで支援していくかケースに応じた対応が必要です。

カ 強度行動障害の方を圏域内で新規で受け入れられる事業所はなく、今後、家庭で支援していくことが難しくなる方も出てくると予想されるため地域には、支援の難しい行動や表れのある方を支援する場の創出が必要です。

4 利用実績

(1) 登録者数 (2025 年 3 月現在)

登録者数 612 名	新規登録者 44 名
------------	------------

(2) 利用状況

区分	5 年度		6 年度	
	相談員	療育	相談員	療育
訪問	318	32	303	42
外来	135	8	101	7
同行	75	－	53	－
電話相談	1,488	－	1,374	－
電子メール	351	－	408	－
個別支援会議	382	－	529	－
関係機関	1,925		1,816	－
その他	13	－	16	－
合計	4,687	40	4,600	49

第 5 こもればいホームヘルプ

1 総括

利用者の障害の状況や家庭状況に合わせた個別支援に重点をおき支援提供を行いました。健康維持とより豊かな地域生活ができるよう配慮し、そのために関係機関との情報共有と連携にも努めました。利用者や同居家族の入

院によるキャンセル、感染症により短期入所利用が長引いたためのキャンセルもありましたが、緊急の依頼にも調整を行い利用者が困ることの無いようにサービスの提供を行いました。移動支援では感染対策を施しイベントへの参加、観光施設等の利用、公共交通機関を利用しての外出支援を行いました。利用者からの希望が多くある映画や動物園等の要望で市外への外出にも対応しました。週末の余暇活動を充実させることで潤いのある生活を送れるように支援しました。

2 重点目標に対する取り組みと成果

受け入れ体制を整え利用者が必要としている支援を積極的に行い安心な暮らしへの支援に努めました。利用者ごとにどのような点を喜んでいただけたのか等について意見交換をする事でモチベーションの維持、向上を図りました。

また、日々の支援の中で起こったことはどんな小さな事でも報告できる信頼関係を築きヒヤリハット等の報告が提出され、それを共有することによって事故防止にも努めることができました。

3 実施状況

(1) 居宅介護

ア 活動内容

在宅の障害児（者）が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排泄、及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般への援助を適切かつ効果的に行いました。

(2) 移動支援

ア 活動内容

一人で外出することが困難な方や複数での外出の機会を増やしたい方に対して、目的地へ安心して安全に出かけられるような介助、付添いを行いました。市内の感染状況を確認しながら屋外散策の計画や短時間での散歩などで外出の機会を増やしました。外食や遠出の希望も多くあり時間をずらし人混みを避ける工夫をしながら対応しました。難しい利用希望にも出来る限りご本人やご家族の希望に寄り添いながら利用者の楽しみを増やせるように支援に努めました。

(3) 福祉有償運送

ア 活動内容

一人で公共交通機関を利用することが困難な方に、移動をスムーズに進めるためのサービスとして始められ、通院介助や移動支援の利用時に支援を行いました。

4 利用実績

(1) 居宅介護

利用者数成人 19 名 児童 2 名

	令和 5 度			令和 6 度		
	身体介護	家事援助	通院介護	身体介護	家事援助	通院介護
4 月	47.0	43.0	12.5	27.5	34.25	13.0
5 月	48.5	51.0	13.5	21.5	35.5	12.0
6 月	44.5	42.0	14.5	21.0	27.5	16.5
7 月	22.5	49.0	11.0	26.0	33.0	11.5
8 月	20.0	51.0	12.5	23.0	32.0	13.5
9 月	16.0	44.0	16.0	13.0	29.5	9.5
10 月	28.0	37.0	12.5	17.0	36.25	12.0
11 月	27.5	35.5	15.5	17.0	31.0	17.5
12 月	23.5	24.5	13.5	13.0	35.0	15.0
1 月	24.5	34.5	13.5	11.0	39.5	12.0
2 月	19.0	30.5	12.5	13.5	35.0	12.5
3 月	24.5	31.5	11.0	17.5	36.0	10.0
小計	345.5	473.5	158.5	221.0	404.5	155.0
合計	977.5 時間			780.5 時間		

(2) 移動支援

利用者数 伊東市成人 22 名 児童 0 名
熱海市成人 4 名 児童 0 名

	令和 5 度		令和 6 度	
	伊東市	熱海市	伊東市	熱海市
4 月	36.5	6.5	57.0	14.0
5 月	35.0	11.0	70.5	15.5
6 月	33.0	8.5	62.5	15.0
7 月	52.0	15.0	61.5	21.0
8 月	62.5	12.5	51.0	8.0
9 月	51.5	10.0	52.0	6.5
10 月	60.5	13.5	69.5	17.0
11 月	60.0	19.0	74.5	14.5
12 月	59.0	17.5	65.5	14.0
1 月	57.5	14.5	64.0	14.5
2 月	54.0	12.5	50.5	12.0
3 月	74.0	12.5	77.5	18.0
小計	635.5	153.0	756.0	170.0
合計	788.5 時間		926.0 時間	

(3) 福祉有償運送

運行回数

	令和 5 度		令和 6 度	
	伊東市	熱海市	伊東市	熱海市
4 月	22	0	23	0
5 月	23	0	29	0
6 月	18	0	22	0
7 月	14	0	32	0
8 月	20	0	20	0
9 月	14	0	24	0
10 月	21	0	29	0
11 月	23	0	46	0
12 月	26	0	28	0
1 月	19	0	23	0
2 月	20	0	30	0
3 月	27	0	39	0
小計	247	0	345	0
合計	247 回		345 回	

令和 6 年度

奨学金拠点区分

事業報告書

1 総括

地域福祉の向上に資する人材の育成及び確保を目的として、社会福祉法人城ヶ崎いこいの里奨学金貸与規則に基づき奨学生を募集するとともに、制度の適正な運用に努めました。

2 実施状況

法人ホームページに募集要項を掲載し、募集内容や奨学金貸与事業の制度を広く周知することで奨学生の募集に努めましたが、令和6年度に新たに奨学金を貸与した者はありませんでした。

令和 6 年度

城ヶ崎デイサービスセンター拠点区分

事業報告書

第1 城ヶ崎デイサービスセンター

1 総括

令和6年度は、開所日数242日、登録人数82名（男性11名、女性71名）年間総利用者数は3,538名です。8月30日に台風による大雨警報の発令により、1日間ご利用者の安全を考慮し休所しています。

11月には伊東市高齢者福祉課から派遣された歯科衛生士による口腔ケア講習を城ヶ崎デイ職員と利用者全員が受講し口腔ケアの重要性を学び、3ヵ月にわたって口腔ケア体操を実施し口腔ケア向上を実感していただきました。

前年に比べ最終登録者は1名の増となり、総利用者数は53名の増となっております。活動についても、一人暮らしや閉じこもりがちな高齢者を送迎し外出の機会を提供。また、連絡ノートを活用し健康状態のチェックや面談により心身の状態や要望の把握に努めました。その季節にあった外出や物作り、レクリエーションによってご利用者様に喜ばれました。

2 実施状況

(1) 事業内容

ア 生きがい対応型デイサービスセンターとして、伊東市より委託を受けている施設です。介護保険に該当しない高齢者の日常生活に必要な動作・体力維持・健康増進の介護予防を推進し、様々な趣味、レクリエーション活動を通じ自立した生きがいのもてる生活を送れるように支援し、閉じこもりがちな高齢者や一人暮らしの高齢者に社会参加の機会を提供しました。

イ 健康増進のための事業

(ア) 温泉入浴によるリラックス作用の促進、清潔保持に努めるとともに身体の変化を確認しました。

(イ) 健康をチェックしバイタル測定による体調管理を行いました。

(ウ) 体力測定の数値や健康機器を利用し、その方に適した体力や機能維持訓練を行いました。

(エ) 様々なプログラムに参加することで知識の向上。また、困りごとなどの各種相談に対応しました。

(オ) 栄養計算された美味しい食事を提供しました。

(2) 生きがい対策のための事業

ア 各種プログラム

(ア) 創作活動、頭の体操、各種レクリエーション活動、介護予防体操

(イ) 散歩、買い物、外出活動

イ 年間行事

(ア) 季節に応じた行事のプログラムの提供

(イ) 梅雨明け予想、七夕会、ハロウィーン祭、クリスマス会、節分祭

(3) その他

(ア) 送迎 公用車1台を8人乗り乗用車に更新し、利用者の送迎時間の負担軽減や送迎の心配なく新規利用者の獲得が出来るようになりました。

(イ) 修繕 伊東市と協議の上、カラオケ室の床抜けの修繕と浴室外外のコンクリートの剥離、非常用外階段の修繕が実施出来ました。

(4) 年間事業報告

月	事業報告	備考
4月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・散歩・買い物・シュートゲーム・輪投げ・カレンダー作成・回想レク・鯉のぼり作り・花見・シャボテン公園見学	汚泥汲み取り 浴槽水検査
5月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・塗り絵・頭の体操プリント・コグニサイズ・カレンダー作成・皆勤賞表彰	
6月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・頭の体操プリント・やまももパン販売・カレンダー作成・梅雨明け予想・買い物・ウェディングドレス試着会・エンディングノートについて	館内消毒
7月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練頭の体操プリント・プチオリンピック・七夕祭短冊作り・外出・笑いヨガ	
8月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・納涼祭・的当てゲーム・敬老会作品作り・体力測定	消防設備点検
9月	テレビ体操・口腔体操・敬老会・防災訓練・体重測定・頭の体操プリント・やまももパン販売・カレンダー作成・体力測定・散歩・買い物・ふれあい広場作品作り	浄化槽清掃 エアコン点検
10月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・散歩・やまももパン販売・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・外出・ハロウィーン仮装大会・映画鑑賞・プチ運動会	
11月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・買い物・頭の体操プリント・カレンダー作成・AED講習・口腔ケア講習・外出・散歩・健康フェスタ見学・コグニサイズ	
12月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・買い物・頭の体操プリント・カレンダー作成・クリスマスリース作り・クリスマス会（ハンドベル・トーンチャイム演奏）	館内消毒 浄化槽法定検査
1月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・初詣・福笑い・新年会・カレンダー作成・体力測定	
2月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・やまももパン販売・防災訓練・頭の体操プリント・節分ゲーム・ひな人形記憶力ゲーム・口腔ケア評価・コグニサイズ	消防設備点検
3月	テレビ体操・口腔体操・体重測定・防災訓練・頭の体操プリント・カレンダー作成・買物・体力測定・外出（ステンドグラス美術館見学）・俳句教室	エアコン点検 非常灯修理

3 利用実績

(1) 運営事業実施状況

ア 月別年間一覧表

実施 月別	開所 日数	登録人員		利用人数		合計	体験	総合計	一日 平均	送迎	入浴	給食
		男性	女性	男性	女性							
4	21	81		34	261	295	2	297	14	297	90	297
		10	71									
5	21	80		35	264	299	9	308	15	308	93	308
		10	70									
6	20	80		38	243	281	7	288	14	288	84	288
		10	70									
7	22	81		51	266	317	11	328	15	328	92	328
		11	70									
8	20	79		33	231	264	2	266	13	266	73	266
		11	68									
9	19	78		34	234	268	6	274	14	274	82	274
		10	68									
10	22	80		41	265	306	9	315	14	315	102	315
		11	69									
11	20	80		34	256	290	3	293	15	293	90	293
		11	69									
12	20	79		36	259	295	8	303	15	303	88	303
		11	68									
1	19	79		34	238	272	15	287	15	287	88	287
		11	68									
2	18	81		32	225	257	24	281	16	281	97	281
		10	71									
3	20	82		35	251	286	12	298	15	298	92	298
		11	71									
計	242	82		437	2993	3430	108	3,538	15	3,538	1071	3,538
		11	71									

イ 新規利用登録・利用解除状況

	男性	女性	合計	備考
新規利用登録者	5	10	15	
利用解除者	3	11	14	介護保険申請のため

第2 伊東市老人憩の家城ヶ崎荘

1 総括

年間開所日 294 日、総利用者数は、14,019 名、1 日平均利用者数は 48 名と前年と比べ、1,253 名の減員となっています。

御利用者も毎日、楽しんで来ていただいていた方がお亡くなりになったり、入院や施設入所等があり減員していると思われます。

開所中の感染症対策として、マスク着用と黙浴を依頼し、入館時の手指のアルコール消毒の徹底と体温測定を実施していただき、37.5 度以上ある時は、入館をお断りし、浴室や広間については、人数を制限しながらの利用とさせていただき、館内に感染症が持ち込まれないように、換気をこまめに行い安心して利用できるように努めました。館内では利用者同士のトラブルが起きないように配慮し、施設の老朽化による不備で迷惑をかけないようにメンテナンスにも注意し対応いたしました。

防災対策として、毎月 1 回、デイサービスと合同で防災訓練を実施し非常通報、避難誘導、防災器具の操作が迅速に行えるように訓練を行いました。

温泉の効能は、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、関節のこわばり、冷え性、疲労回復などの効果があり利用者には大変好評をいただきました。

2 利用実績

会館日数		294 日		
総利用者数		10,606 組		
		14,019 名 (1 日平均 48 名)		
男性		6,484 名		
女性		7,535 名		
入浴利用		9,927 名		
ヘルストロン利用		577 名		
区 分		集会場	休憩室	合 計
老 人	レクリエーション	183 件 2,471 名	223 件 938 名	406 件 3,409 名
	研 修	0 件 0 名	0 件 0 名	0 件 0 名
身体障害児・者	レクリエーション 研 修	0 件 0 名	0 件 0 名	0 件 0 名
その他	レクリエーション 研 修	3 件 22 名	0 件 0 名	3 件 22 名
合 計		186 件 2,493 名	223 件 938 名	409 件 3,431 名

令和 6 年度

おおむろ拠点区分

事業報告書

第1 障害者就業・生活支援センターおおむろ

1 総括

令和6年4月より障害者の法定雇用率2.5%への引き上げと事業主による障害者への合理的配慮が義務化となり、就労選択支援事業が令和7年10月より開始予定など、障害者雇用を取り巻く環境が変わりつつあります。また、登録者の中高年齢化や物価の上昇など生活環境も変化しています。これにともない登録者からの相談も多様化しており、おおむろしゃべりばを5月より毎月開催するなど相談しやすい環境作りに注力しました。

2 実施状況

(1) 活動内容

- ア 企業への支援（80事業所、473件）
- イ 職場定着促進のための在職者交流活動の実施（2回開催）
- ウ 個別面談会の実施（熱海・伊東各1回）
- エ ピアサポート活動（1回開催）
- オ おおむろしゃべりばの実施（11回開催）
- カ 中小企業における障害者支援担当者に対する支援（2回開催）
- キ おおむろ連絡会議の主催（2回開催）
- ク 熱海・伊東地区地域自立支援協議会就労支援部会の開催（5回開催）
- ケ 熱海・伊東地区地域自立支援協議会運営会議、定例会への参加
- コ 伊豆地区就業促進協議会への参加（2回参加）
- サ 伊東市障害者雇用推進会議への参加（3回参加）
- シ 他の就業・生活支援センター連絡会議への参加（4回参加）
- ス 余暇支援 スマイル会（8回開催、1回中止）

(2) 相談内容と傾向

内容

- ア 登録者及びその家族、支援機関からの求職に関する相談
- イ 企業及び登録者からの就労の継続に関する相談
- ウ 生活に関する相談
- エ 関係機関との連絡調整

傾向

- ア 企業の担当者より事業主による合理的な配慮について関心が高く、職場での合理的配慮の提供方法について具体的にどのように対応し

ているかなどの相談が多くあり、研修会開催などの対応を行いました。

- イ 障害者雇用率の引き上げにあたり、企業の障害者雇用率達成への動きはありますが、求職登録される障害のある方は減少傾向にあります。就労に消極的な障害のある方が一般企業での就労を検討できる機会が必要です。
- ウ 就労している方が中高年齢になり作業能力や職場の環境などの変化で安定して働いていた方が働けなくなってしまうなどの相談が多数ありました。職場訪問や面談を行い本人と企業が安心して働けるように支援に努めました。
- エ 物価の上昇などによる生活面の相談や職場での人間関係、中高年齢化による就労面での不安など多種多様な相談に対し、おおむろしゃべりばを5月より毎月開催し相談しやすい環境づくりを行いました。

3 利用実績

(1) 登録状況

	身体		知的		精神		その他		合計		前年度比
	令和 5年 度	令和 6年 度	令和 5年 度	令和 6年 度	令和 5年 度	令和 6年 度	令和 5年 度	令和 6年 度	令和 5年 度	令和 6年 度	
在職中	24	19	113	113	31	37	1	1	169	170	99%
求職中	2	3	11	8	10	10	0	0	23	21	91%
その他	11	10	44	28	31	16	0	0	86	54	62%
合計	37	37	168	149	72	63	1	1	278	245	88%

※令和7年3月に登録者の整理を行いました。

(2) 支援実績

	相談・支援（内職場訪問）		職場実習件数		就職件数	
	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
4月	80 (23)	89 (13)	1	0	6	5
5月	123 (29)	84 (4)	1	4	1	0
6月	122 (11)	107 (17)	1	1	1	2
7月	104 (12)	88 (16)	5	2	2	0
8月	103 (18)	83 (12)	1	2	3	2
9月	100 (19)	63 (15)	2	3	1	1
10月	120 (20)	96 (23)	4	0	0	2
11月	110 (22)	79 (17)	0	1	5	1
12月	100 (24)	78 (23)	3	1	1	0
1月	125 (23)	113 (28)	2	0	2	1
2月	133 (26)	80 (12)	0	0	1	1
3月	92 (23)	104 (12)	2	0	0	0
合計	1,312 (250)	1,064 (192)	22	14	23	15
対前年度比		75% (60%)	137%	63%	164%	65%

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項に該当する事項はありません。

社会福祉法人城ヶ崎いこいの里